

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	アートセラピー／文芸との触れ合いVB						
担当教員	石原 興子					科目ナンバー	A22090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	アートセラピー（音楽）						
授業の概要	人は音楽や造形など様々な表現活動を行っています。それは人間の発達や変容にかかせない営みでもあります。日常の様々な音・音楽を意識することから、特に、医療・福祉・教育現場で行われている音楽療法という臨床的な分野を紹介し、様々な音・音楽の捉え方、芸術活動の営みに潜在している表現することの意味を探ることを目指します。						
到達目標	1. 音・音楽について柔軟な考え方や捉え方ができるようになる【態度・志向性、汎用的技能】 2. 表現活動の演習を通して、自己を知る【態度・志向性、汎用的技能】 3. 音楽療法について、基本的な知識と理解ができる【知識・理解】 4. 人が表現することの意味について考えていくことができる【態度・志向性、知識・理解】						
授業計画	第1回目 イン트로ダクション 第2回目 アートセラピーとは 第3回目 音と「きく」こと 第4回目 音を通したコミュニケーション 第5回目 音の要素 第6回目 音楽の要素 第7回目 即興音楽 第8回目 音と「つくる」こと 第9回目 言葉と音・音楽療法 第10回目 日本文化における音・音楽療法 第11回目 描画と音・音楽療法 第12回目 音楽療法の実践 第13回目 音楽療法の理論 第14回目 音楽療法の実践（講義・演習の後に小テストを行う場合がある） 第15回目 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で紹介する文献や配布されたプリントの取り扱い箇所を読んでおくこと。（学習時間90分） 授業後学習：各回の授業内で感じたことや考えをリアクションペーパーにまとめる。課題を出すので、その発表準備をすること。（学習時間90分）						
授業方法	講義：授業では、視聴覚教材を用いながら、また、楽器などを用いた実際の体験学習を通して、グループやペアによるディスカッションを行います。グループ（ペア）ワークの発表をふまえ、講義を行います。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物・授業への参加度40%、発表30%、レポート・小テスト等30% 授業内での提出物・授業への参加度：各回提出のリアクションペーパー、表現活動への取り組み、グループディスカッションへの参加度、内容により、総合的に評価。到達目標(1)(2)(4)に関する到達度の確認。 発表：テーマに対する自らの興味・関心の明確性について評価。到達目標(1)(2)(4)に関する到達度の確認。 レポート・小テスト等：授業で扱った音楽療法や音・音楽についての考え方に関する理解度、考察について評価。到達目標(1)(3)(4)に関する到達度の確認。 リアクションペーパーのコメント・質問等について翌週授業で紹介・解説します。発表は、発表後授業内で、レポート・小テスト等については、最終回の授業内で講評します。						
履修上の注意	授業回数の3分の2以上の出席に満たない者、指定の発表日に不参加、レポート提出をしなかった場合は失格条件とします。						
教科書	教科書 適宜授業内でプリントを配布						
参考書	参考書 「音楽療法—ことばを超えた対話」 レスリー・バント著、稲田雅美訳、ミネルヴァ書房、ISBN4-623-02625-6						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	アミューズメント産業論							
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ－	A72060	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本のアミューズメント産業の特性と現状・課題を概観する。							
授業の概要	東京ディズニーランドを皮切りに、日本は多くのテーマパークや遊園地を生み出してきた。アミューズメント産業は、バブル経済期の乱立時代とその後の淘汰の時代を経て、現在では一定の市場規模を持つ観光の一分野として定着している。しかし、成功例ばかりではなく、これまで数多くのテーマパークが入場者数の減少から経営不振に陥り、閉園したケースもある。 本講義では、成功事例・失敗事例を含めケーススタディ通じて、アミューズメントパークの成功にとって重要な要素である経験価値について考えていく。							
到達目標	①アミューズメント産業の特性と現状を理解することができる。 ②アミューズメント産業の課題を意識することができる。							
授業計画	第1回 アミューズメント産業の特性と現状 第2回 テーマパークの歴史 第3回 東京ディズニーランドの発展 第4回 東京ディズニーリゾートの展開 第5回 オリエンタルランドの戦略 第6回 東京ディズニーリゾートの課題 第7回 ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの発展 第8回 ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの価値と戦略 第9回 ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの課題 第10回 東京ディズニーリゾートとユニバーサル・スタジオ・ジャパンの比較検証 第11回 ハウスオブホースの現状と特性 第12回 キングダムオブヘartsの現状と特性 第13回 博物館・水族館・動物園の現状と特性 第14回 その他のアミューズメント産業の展開 第15回 アミューズメント産業と観光の取り組み							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】 関心のあるアミューズメント産業についてHPなどを確認しておくこと。（60分） 【授業後】 復習と共に、各アミューズメント産業のケースを整理しておくこと。（60分）							
授業方法	講義							
評価基準と評価方法	平常点：20%（各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問ほか）などにより評価する。） レポート・小テスト：20%（到達目標に関する到達度の確認） 期末試験：60%（到達目標に関する到達度の確認）							
履修上の注意	①授業中に配布するプリントは、出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布）。 ②講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ③アクティブラーニングを積極的に取り入れる。							
教科書	なし							
参考書	随時、授業中に紹介する。							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	イベント演出論						
担当教員	栢井 智英					科目ナンバ－	A22040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日常には様々なイベントがある。ホームパーティや地域のお祭りからオリンピックまでその大きさも形態も様々である。この授業ではイベントの企画や運営に必要な知識から学び、効果的なイベントの演出について学ぶ。またそれとともにイベントにかかわる社会的、文化的、芸術的な側面についても考えてみたい。						
授業の概要	イベントの定義づけから始まり、イベントの企画運営にかかわる要素、そしてイベントが行われる空間の効果的な演出について、いくつかのイベントを例にとって学び、最終的にイベントの企画と演出についてのプランを作成して発表してもらう。						
到達目標	イベントの企画から当日までの流れを理解し、自分の言葉で誰にでも説明できるようになる。そして将来関わることになるかもしれない地域のイベント、仕事に関わったイベントに応用できる基礎的な知識を身につける。						
授業計画	1. イントロダクション：授業の進め方や評価、イベントの定義づけについて 2. イベントの主役：商品、参加者、施設、スポーツ選手、歌手、俳優など 3. イベントの演出：空間 4. イベントの演出：音楽と照明 5. イベントの演出：人の動かし方、観客 6. ターゲット層に向けた広報と当日の演出、予算について 7. (事例1) 演劇① 公演の企画から当日までの準備 8. (事例1) 演劇② 劇場という空間について 9. (事例2) オリンピック：開催までの4年間の流れ 10. (事例2) オリンピック：開会式のパフォーマンス 11. (事例3) 夏祭り：野外でのステージやブースの使い方 12. 演習：グループでイベントの企画（催し物とテーマ設定） 13. 演習：グループでイベントの企画（具体的な内容） 14. グループ発表 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	与えられたテキストの予習。それだけでなくイベントに関する情報はインターネット上にたくさんあります。写真や映像など有益な情報を探して積極的に知識を取り入れてください。2時間くらいは予習に時間をかけえらうといいでしょう。また後半は演習としてグループでイベントを企画してもらいますので、よくコミュニケーションを図り、作業を進めてください。						
授業方法	講義とグループ・ディスカッションを中心に行い、最終的にグループでイベント企画の発表を行う。グループ・ディスカッションでは、最終的なイベント企画の発表につながるように個々人が積極的に参加することが望まれる。						
評価基準と評価方法	ディスカッションも含めた授業における全体的な評価50% グループ発表とレポート50%						
履修上の注意	遅刻は正当な理由がない限りみとめられません。 グループワークが多いので授業での積極的な参加が求められます。						
教科書	適宜資料としてプリントを配布する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目																																																																		
科目名	イラストレーション・絵本／文芸との触れ合いⅡIA																																																																		
担当教員	中村 茂					科目ナンバー	A22050																																																												
学期	前期／1st semester		曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0																																																											
授業のテーマ	パソコンソフトのIllustratorを活用したイラストレーション制作のスキルを習得する。																																																																		
授業の概要	パソコンのグラフィックソフト(Illustrator)を利用したイラストレーション制作の入門として、直線・曲線や文字などのオブジェクト入力、回転・拡大縮小などの編集、植物・動物・人間モチーフの描画、ポストカード作成などを通じて、基本的イラスト作成スキルを習得するとともに、簡単なイラストブックを制作する。																																																																		
到達目標	(1)イラストレーションというメディアの現代的な意味と価値を理解できる。【知識・理解】 (2)パソコンによるイラストレーションの基本的技能を活用した自身の表現ができる。【汎用的技能】 (3)イラストレーションと言葉の複合により、他者に伝わる表現ができる。【汎用的技能】																																																																		
授業計画	<table><tr><td>1)</td><td>4/09</td><td>オリエンテーション</td><td>PC教室・システムの使用方法、Illustratorの基本</td></tr><tr><td>2)</td><td>4/16</td><td>直線・曲線の描き方</td><td>ペンツールの使い方</td></tr><tr><td>3)</td><td>4/23</td><td>フリーハンドでの描き方</td><td>ブラシツールの使い方</td></tr><tr><td>4)</td><td>5/07</td><td>オブジェクトの編集</td><td>整列、拡大・縮小、回転、変形など</td></tr><tr><td>5)</td><td>5/14</td><td>文字・テキストの編集</td><td>フォント、スタイルなどのタイポグラフィ</td></tr><tr><td>6)</td><td>5/21</td><td>ピクトグラムのコピー</td><td>基本図形の編集によるオブジェクト作成</td></tr><tr><td>7)</td><td>5/28</td><td>基本的なイラスト作成 - 1 -</td><td>植物モチーフ</td></tr><tr><td>8)</td><td>6/04</td><td>基本的なイラスト作成 - 2 -</td><td>動物モチーフ</td></tr><tr><td>9)</td><td>6/11</td><td>イラスト作成の応用スキル</td><td>パターン、グラデーション、トレースなど</td></tr><tr><td>10)</td><td>6/18</td><td>ポストカード用イラスト - 1 -</td><td>植物、動物の配置</td></tr><tr><td>11)</td><td>6/25</td><td>ポストカード用イラスト - 2 -</td><td>女の子の顔、体、服</td></tr><tr><td>12)</td><td>7/02</td><td>ポストカード用イラスト - 3 -</td><td>背景、装飾</td></tr><tr><td>13)</td><td>7/09</td><td>キャラクター風アイコン</td><td>オブジェクトの使い回しと表情の変化</td></tr><tr><td>14)</td><td>7/16</td><td>イラストブックの制作 - 1 -</td><td>テーマ設定、ページ構成</td></tr><tr><td>15)</td><td>7/23</td><td>イラストブックの制作 - 2 -</td><td>ページレイアウト、印刷・製本</td></tr></table>							1)	4/09	オリエンテーション	PC教室・システムの使用方法、Illustratorの基本	2)	4/16	直線・曲線の描き方	ペンツールの使い方	3)	4/23	フリーハンドでの描き方	ブラシツールの使い方	4)	5/07	オブジェクトの編集	整列、拡大・縮小、回転、変形など	5)	5/14	文字・テキストの編集	フォント、スタイルなどのタイポグラフィ	6)	5/21	ピクトグラムのコピー	基本図形の編集によるオブジェクト作成	7)	5/28	基本的なイラスト作成 - 1 -	植物モチーフ	8)	6/04	基本的なイラスト作成 - 2 -	動物モチーフ	9)	6/11	イラスト作成の応用スキル	パターン、グラデーション、トレースなど	10)	6/18	ポストカード用イラスト - 1 -	植物、動物の配置	11)	6/25	ポストカード用イラスト - 2 -	女の子の顔、体、服	12)	7/02	ポストカード用イラスト - 3 -	背景、装飾	13)	7/09	キャラクター風アイコン	オブジェクトの使い回しと表情の変化	14)	7/16	イラストブックの制作 - 1 -	テーマ設定、ページ構成	15)	7/23	イラストブックの制作 - 2 -	ページレイアウト、印刷・製本
1)	4/09	オリエンテーション	PC教室・システムの使用方法、Illustratorの基本																																																																
2)	4/16	直線・曲線の描き方	ペンツールの使い方																																																																
3)	4/23	フリーハンドでの描き方	ブラシツールの使い方																																																																
4)	5/07	オブジェクトの編集	整列、拡大・縮小、回転、変形など																																																																
5)	5/14	文字・テキストの編集	フォント、スタイルなどのタイポグラフィ																																																																
6)	5/21	ピクトグラムのコピー	基本図形の編集によるオブジェクト作成																																																																
7)	5/28	基本的なイラスト作成 - 1 -	植物モチーフ																																																																
8)	6/04	基本的なイラスト作成 - 2 -	動物モチーフ																																																																
9)	6/11	イラスト作成の応用スキル	パターン、グラデーション、トレースなど																																																																
10)	6/18	ポストカード用イラスト - 1 -	植物、動物の配置																																																																
11)	6/25	ポストカード用イラスト - 2 -	女の子の顔、体、服																																																																
12)	7/02	ポストカード用イラスト - 3 -	背景、装飾																																																																
13)	7/09	キャラクター風アイコン	オブジェクトの使い回しと表情の変化																																																																
14)	7/16	イラストブックの制作 - 1 -	テーマ設定、ページ構成																																																																
15)	7/23	イラストブックの制作 - 2 -	ページレイアウト、印刷・製本																																																																
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常的に目にする雑誌、絵本、コミックなどのイラストレーションに関心を持つ。また紙の上での手書きイラストを試みることでアナログ手法を体験する。合わせて30分程度。																																																																		
授業方法	講義・実技 PC教室で各自が1台ずつのPCを利用し、グラフィック・ソフトの操作方法の講義を聞き、実技でスキルを習得する。																																																																		
評価基準と評価方法	最終課題作品60%、平常点40%で評価します。 平常点は毎回の課題の提出状況、スキルの上達度を評価します。																																																																		
履修上の注意	制作プロセスは各段階での操作や技法の理解を段階的に踏まえる必要があるので、常に出席を心がけ、欠席した場合は次回までに必ず授業内容を自習すること。 教科書を必ず購入し、毎回の授業に持参すること。 A4サイズのクリアファイル（授業で指定）を購入し、制作課題を保存すること。																																																																		
教科書	「Illustratorでイラストを描こう！ 超入門教室」、廣まさき著、技術評論社、¥1,980（本体） ISBN978-4-7741-8166-0																																																																		
参考書	授業中に紹介します。																																																																		

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	映像と大衆文化／比較文化IIA							
担当教員	西岡 恒男					科目ナンバー	A32030	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	角川映画を中心とした1980年代日本映画を概観する：大衆からオタクへ							
授業の概要	平成の時代は幕を閉じたが、この時代は実は昭和末期＝1980年代の文化に大きく影響を受けてきた。日本映画界を見ると、1960～70年代に従来の製作・配給システムが崩壊し、やがてオタク文化が花開いた1990年代以降の平成時代へ至るが、その間の移行期＝1980年代には、新たな人物・現象が数多く登場した。本講義では、この時期にヒットした角川映画に着目し、数々の角川作品を通じて、今日私たちが知るサブカルチャーの原点を理解したい。							
到達目標	(1) 角川映画をはじめとする日本映画の歴史や特徴を理解する【知識・理解】 (2) 日本映画の流れの背景にある、多様な文化の変容を把握する複眼的視点を養う【態度・志向性・汎用的技能】 (3) オタク文化・メディアミックスの原点を理解し、現代社会の基礎を身に付ける【知識・理解、汎用的技能】							
授業計画	第1回 日本映画の歴史と1970年代の日本映画の状況 第2回 1980年代の日本映画：角川映画とメディアミックス 第3回 角川映画の代表作と社長・角川春樹 第4回 角川映画を代表するスター：松田優作 第5回 1980年代のアイドルたち 第6回 角川映画を代表するアイドル①：薬師丸ひろ子 第7回 角川映画を代表するアイドル②：原田知世 第8回 角川映画を代表する映画監督：大林宣彦 第9回 日本映画と地縁社会/地域社会 第10回 角川映画とアニメ 第11回 角川書店と徳間書店：宮崎駿の世界観 第12回 1980年代のサブカルチャー 第13回 角川春樹時代の「終焉」 第14回 新社長・角川歴彦の登場と新たなメディアミックス 第15回 1990年代の日本映画へ：北野武の登場 キーワード：1980年代、角川映画、サブカルチャー、メディアミックス、アイドル、オタク							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：manabaを活用して各回授業のテーマに沿った予習を行い、授業にのぞむこと。可能であれば当該映画作品を事前に見ること（学習時間2時間） 授業後学習：レポート作成に役立つようにmanabaを通じて授業で取り上げた内容を整理し、理解を深めること。（学習時間2時間）							
授業方法	講義：毎回の授業内で映画の一部をお見せする。また、毎回リアクションペーパーを要求する。サブカルチャーについての授業であり、楽しくわかりやすい授業を心がけるつもりである。また、各自が主体的に学習し、自身がいちばん関心を抱くテーマを発見できる授業を展開する。							
評価基準と評価方法	リアクションペーパー 30%、manaba 30%、レポート 40% 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容のコメント・質問など）。到達目標(1)と(3)を意識した記述が望ましい。 レポート：詳細は授業内で発表するが、到達目標(1)・(3)とともに、とくに(2)を意識した記述が望ましい。また、レポート未提出者は原則単位認定を認めない。							
履修上の注意	1. プリントは毎回配布する。 2. 授業回数の3分の1以上の欠席者は原則単位認定を行わない。 3. 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。							
教科書	教科書はないが、毎回プリントを配布するのでこれを教科書代わりとする。							
参考書	『「おたく」の精神史 一九八〇年代論』、大塚英志著、2016、星海社新書、ISBN978-4-06-138579-5							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	演劇と現代社会／文芸特殊講義VB						
担当教員	枡井 智英					科目ナンバ	A43050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	第2次世界大戦後の日本と英米の演劇発展の基本的知識を習得する。						
授業の概要	西洋と日本の現代演劇の概説を含め、ドラマ・シアターの諸要素を学ぶ。代表的な劇作家の作品を、その時代性、または上演技術の発展などの要素も含めて紹介と考察を行う。						
到達目標	戯曲と上演の結びつきをよく理解し、演劇学研究に必要な基本的知識を身につける。演劇の発展の中で登場する重要な演劇人について自分の言葉でしっかり語ることができるようになる。						
授業計画	1. 日本の戦後新劇：① 戦前から戦後にかけての新劇について 2. 日本の戦後新劇：② 戦後新劇の大衆化と映画界との関係について 3. 日本の小劇場：寺山修二① 1960年代における日本の小劇場運動 4. 日本の小劇場：寺山修二② 初期の実践『毛皮のマリー』の考察 5. 日本の小劇場：寺山修二③ 後期の実践 観客と舞台との境界の消滅 6. 日本の小劇場：1980年代① つかこうへいの功績 7. 日本の小劇場：1980年代② パブル景気という背景と小劇場 8. 日本の小劇場：1980年代③ 野田秀樹と鴻上尚史などの実践 9. 英米の現代演劇① スタニスラフスキー・システムの実践と演技術の発展 10. 英米の現代演劇② フェミニズム、ジェンダー、セクシャリティー 11. 英米の現代演劇③ ポスト・コロニアリズム 12. ブロードウェイ・ミュージカル① ミュージカルの定義とその歴史 13. ブロードウェイ・ミュージカル② 1980年代のスペクタクルなミュージカル 14. ブロードウェイ・ミュージカル③ 多様な音楽、ダンス様式を採用したミュージカル 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	渡されたテキストの予習。予習で渡されたテキストは各自しっかり読んでおくこと。予習には1時間以上の時間をかけましょう。また課題が出た場合、図書館を積極的に利用し、関連DVDの視聴や関係書籍を読んでみてください。						
授業方法	主として講義、実際にテキストを読む場合もある。ディスカッションを積極的に行いながら授業を進める。						
評価基準と評価方法	平常点・提出物（50％）、期末レポート（50％）						
履修上の注意	正当な理由がないと遅刻は認めません。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	参考文献は、テーマごとに講義期間中に適宜紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	音楽の基礎						
担当教員	木本 雅子					科目ナンバー	A71010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	読譜、音楽理論、音楽史を学び、様々な楽曲に触れることによってクラシック音楽の理解を深める。						
授業の概要	・音楽作品を鑑賞、或いは演奏するに際し、正しく理解し表現する為に必要な楽典、音楽史、ソルフェージュについて講義と実技を交えながら進めていく。 ・音楽史を学ぶ中で様々な楽曲に触れ、音楽の持つ喜びを知ると共に音楽表現の可能性を研究する。 ・アンサンブル曲を学び、アンサンブル能力を養う。						
到達目標	(1)音楽理論の基礎的な知識を身につける【知識・理解】 (2)音楽史を学ぶことによって各時代の音楽の文化的歴史的背景、音楽様式、音楽と他の分野の芸術との関係性を理解し、それらの知識をもとに、楽曲について文章にまとめることが出来る【知識・理解、汎用的技能】 (3)アンサンブル曲を鑑賞、或は実演を通して学ぶことによって、音楽への興味や関心をより具体的なものとして意識することが出来る【態度・志向性】						
授業計画	第1回 古代の音楽 古代ギリシアの音楽と理論 第2回 中世の音楽① モノフォニー 第3回 中世の音楽② グレゴリオ聖歌 第4回 ルネサンスの音楽① ポリフォニー 第5回 ルネサンスの音楽② 宗教改革と音楽 第6回 バロックの音楽① モノディー 第7回 バロックの音楽② バッハ、ヘンデル 第8回 まとめと中間試験 第9回 古典派の音楽① ホモフォニー 第10回 古典派の音楽② モーツァルト、ベートーヴェン 第11回 ロマン派の音楽① フランス革命と音楽 第12回 ロマン派の音楽② リート、オペラ 第13回 近・現代の音楽 絵画と音楽 第14回 日本における西洋音楽の流れ 滝廉太郎、山田耕作、中田喜直、團伊久磨、三善晃、武満徹 その他の作曲家 第15回 まとめと授業内容の総復習及び発表 ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書及び指定した課題等の予習と提出課題の準備。（詳細は授業内で指示） （学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。（学習時間：90分）						
授業方法	講義：テーマの導入を図る練習問題について、グループ又はペアによるディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの報告をふまえ、重要事項について解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（授業態度、授業への積極性、授業内における課題など）と中間試験、レポートによって評価する。（平常点40％、中間試験30％、レポート30％の予定） 平常点：授業への積極性、課題提出等を評価する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 中間試験：授業で扱った音楽理論に関する理解度について評価する。到達目標(1)に関する到達度の確認。 レポート：授業で学習した内容の理解度、各自の楽曲に対する考察に基づきレポートが作成できているかどうか評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 授業内に課す課題、中間試験結果について翌週授業で講評と解説をする。レポートの評価後は返却して各自にフィードバックする。						
履修上の注意	音を扱う授業であるので私語は厳禁。 出席回数が2/3未満である場合、評価の対象としない。						
教科書	『決定版 はじめての音楽史 一古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』 著者 久保田慶一、ほか 音楽之友社 ISBN978-4-276-110199 上記の他、資料、楽譜を配布する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	歌曲の調べ／文芸との触れ合いVA							
担当教員	嶋村 のぞみ					科目ナンバ－	A22080	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	クラシック音楽における声楽曲・歌曲と日本の歌とのさまざまな作品にふれるとともに、歌い方の基礎を学びます。 長い時代を経て今日まで技法が受け継がれ、演奏され続けて来た再現芸術の魅力を探ります。							
授業の概要	声楽曲・歌曲作品の数々を楽曲ごとの時代、作曲家、国、言語などの特色とともに、音源・映像を鑑賞したり、楽譜をみたり、実際に歌ってみたりしながら学びます。 また、美しい日本語、日本の原風景とともに上の世代から歌い継がれ、後世にも残していくべき日本の歌にも多く親しみます。							
到達目標	・ 声楽作品の歴史的考察と発声の技術を学ぶことにより、楽曲鑑賞の基本的な視点を身につけ、作品への味わい、楽譜をみたり、実際に歌ってみたりすることができるようになる。【知識・理解】 ・ 身体の使い方と声との関連を体得し、無理のない発声と明確な発語で歌うことができるようになる。【汎用性技能】 ・ 古い芸術文化が受け継がれていくことの大切さを意識・理解することができる【態度・志向性】							
授業計画	第1回 オリエンテーション 声楽・歌曲について始めに知っておきたいこと 第2回 ドイツ・リート① 詩と音楽との結びつき・声とピアノで描かれる世界 第3回 オペラの楽曲① 総合舞台芸術オペラの発祥～西洋でのオペラの発展 第4回 英語圏の歌 イングランドの伝承歌～アメリカでの音楽と歌の発展 第5回 日本の歌① 西洋音階の普及と世界の愛唱歌・日本の唱歌 第6回 日本の歌② 日本の芸術歌曲と明治から大正の童謡・唱歌 第7回 第6回までのまとめ 第8回 ドイツ・リート② リートに歌われた物語のヒロインたち 第9回 オペラの楽曲② オペラアリア キャラクター（役柄）と声質の分類 ソプラノ 第10回 オペラの楽曲③ オペラアリア キャラクター（役柄）と声質の分類 メゾソプラノ・アルト 男声 第11回 オペラの楽曲④ オペレッタ～エンターテインメントへの発展 第12回 日本の歌③ 日本の叙情歌・流行歌 第13回 第8回～第12回のまとめ・日本と西洋の発声と歌声を比較 第14回 歌唱演習のまとめ 第15回 総まとめと試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：次回授業で用いる題材・楽曲について調べておくことを毎回の授業で指示します。楽曲の歌詞や解説を必ず読んでおくこと。（学習時間60分） 授業後学習：復習レポートを毎回課します。学んだテーマ、楽曲、歌唱演習、の復習・確認をすること。また、学んだ内容と関連する内容の事柄・楽曲について調べたり鑑賞してみましょう。普段よく耳にする曲や歌を聴くときに、声や歌について学んだことに気をつけながら聴いてみましょう。（学習時間90分）							
授業方法	講義：毎回のテーマの概説をすすめながら、楽曲作品を音源や映像で鑑賞したり、楽譜をみて分析したり、実際に曲を歌ってみたりします。 演習：歌唱の演習をします。体をほぐす簡単な体操をして発声練習を行い、声と言葉の発語をフレーズごとに気をつけて細かく練習をしながら楽曲を歌うことに取り組みます。講義テーマとは異なる内容の楽曲も多く用います。 欠席者には必ずレポートを課します。（欠席した場合は次回出席した授業時に欠席レポートの課題を渡します。）							
評価基準と評価方法	平常点40％ 授業での取り組み・積極性・授業態度を評価 提出物・授業レポート40％ 学習の理解度・関心度・学習意欲を評価 期末レポート・試験20％ 各自の歌唱への取り組み、学習到達度を評価							
履修上の注意	・ 演習では身体を動かし、声を出すので、必ず動きやすい服装で、水分補給のための水を常備すること。 ・ 音楽を聴くときのエチケットのひとつとしても、私語は慎むよう。 ・ 上手に歌えることをよいと評価するのではなく、歌うことへの取り組みを重要としますので、歌うのが得意ではないという人でも積極的に参加してください。 ・ 授業回数の3分の1以上の欠席は単位の認定を行えません。楽曲の歌唱は毎回を前回の続きとして行うため、連続しての欠席が多くみられる場合は期末試験の受験資格を失うことがあります。							
教科書	プリントを毎回配布します。							
参考書	「合唱のためのメソッド：あなたの声帯が生かされる発声法《ヴォーチェ・ディ・フィンテとその実践》」 当間修一 著 全音楽譜出版社 ISBN978-4-11-700381-9							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	キャラクタービジネス論						
担当教員	辻 幸恵					科目ナンバ	A72070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまなビジネスをキャラクターグッズを通じて知り、マーケティングの重要性を学ぶ						
授業の概要	グローバル化が進む社会でキャラクター（マスコット）は多様なビジネスの要素を含んでいる。たとえばゆるキャラは地域に、スポーツマスコットは世界に、貢献しアピールしながらビジネスモデルをもっている。それらを学びよりビジネスを身近に感じてもらうことを目指し、キャラクターを使う意味について学ぶ。						
到達目標	1. ビジネスの基本を知り、キャラクターを通じて販売戦略を推測できる。 2. キャラクタービジネスを通じてマーケティングの要素を習い、それらの意味するところを説明できる。 3. キャラクタービジネスの特性を理解し、他のビジネスへの応用する方策を身に付ける。						
授業計画	第1回 キャラクタービジネスとは何かを考える視点 第2回 キャラクターの定義と日本産キャラクターの魅力 第3回 キャラクターの分類と多様性 第4回 企業キャラクターの事例（不二家のペコちゃん） 第5回 キャラクターとマーケティングとの関係 第6回 消費者視点へのアピールと経営戦略 第7回 消費者心理とキャラクターの特性 第8回 ビジネス活用とキャラクター効果 第9回 キャラクター商品への理解 第10回 キャラクタービジネスのメリットとデメリット 第11回 企業キャラクターの本質とブランド化 第12回 キャラクターと智財 第13回 キャラクタービジネスと商品化権 第14回 キャラクターに関する諸問題 第15回 授業内容のまとめ・総復習と確認問題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（詳細は授業内で指示）（学習時間90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間90分）						
授業方法	講義（各回設定のテーマについて講義をおこなう。各回の授業内で確認問題も解く）						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 平常点40%：各回の授業内で毎回3問ずつ問題を出すのでその解答を提出。（到達目標1の到達度の確認） レポート20%：8回目に課題を提示する。15回目に提出。（到達目標2の到達度の確認） 15回目の確認問題40%：授業で学習したキャラクタービジネスについての確認。（到達目標3の到達度の確認） 課題に対するフィールドバックの方法 毎回の授業のはじめに前回の問題の解答を解説する。						
履修上の注意	1. 毎回の授業内で実施する問題に対する解答はその授業内に提出すること。 2. 遅刻・早退は認めない						
教科書	『キャラクター総論』、辻幸恵・梅村修・水野浩児著、白桃書房、ISBN978-4-561-26509-2						
参考書	『キャラクタービジネス』、山田徹著、PHP研究所、ISBN4-569-61177-X						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読A						
担当教員	枡井 智英					科目ナンバー	A0102A
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	メーテルリンクの『青い鳥』を読む。						
授業の概要	1911年にノーベル文学賞したメーテルリンクの代表作の一つである『青い鳥』を江國香織の訳で講読する。						
到達目標	単に物語をおって本を読んでいくというのではなく、言葉が持つ意味を吟味し、物語に登場する人物や場所、そして各場面で起こる出来事の中にあらわれる作者の意図を読み解いて行く読書法を身につける。作品にはテーマがあり、それを探り出す読み方を身につける。『青い鳥』で描かれたテーマについて自分の言葉でしっかり語ることのできるようにする。						
授業計画	1. イントロダクション：授業の進め方や評価、そしてメーテルリンクについての説明 2. 戯曲『青い鳥』とその文学的背景の説明 3. 「はじまり」：幸せはどう描かれているか 4. 「はじまり」：見えるということについて 5. 「妖精の邸宅」 6. 「記憶の国」：お墓という文化 7. 「記憶の国」：時間という概念 8. 「夜の城」：「悪」を連想させる物や出来事 9. 「夜の城」：戦争と病気 10. 「月夜の森」：人間と動植物との関係 11. 「月夜の森」：自然破壊による環境問題 12. 「幸福の館」：人間の生きる目的 13. 「幸福の館」：裕福と幸福の関係 14. 「路上で」 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回の授業の前に、知らない漢字や語彙があれば必ず調べて、自分でテキストを読み、授業後に読み返すという作業が授業参加の前提である。予習として1時間は精読の時間をかけること。また時代背景などのリサーチ課題に関し、てもしっかり予習をしてくること。						
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら、テキストを一緒に読んでゆく（声を出して輪読する）。グループ・ワークを含めたディスカッションも行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加度や授業態度などの平常点40%、期末レポート60%で評価する。						
履修上の注意	全授業回数の3分の2以上出席しないとレポートの提出は認められない。 教科書は必ず授業開始前に購入して、第1回目の授業から毎回持参すること。						
教科書	モーリス・メーテルリンク著、江國香織訳『青い鳥』講談社、2016 ISBN 978-4-06-293540-1						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読B						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバー	A0102B
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	メーテルリンクの『青い鳥』を読む。						
授業の概要	1911年にノーベル文学賞したメーテルリンクの代表作の一つである『青い鳥』を江國香織の訳で講読する。						
到達目標	単に物語をおって本を読んでいくというのではなく、言葉が持つ意味を吟味し、物語に登場する人物や場所、そして各場面で起こる出来事の中にあらわれる作者の意図を読み解いて行く読書法を身につける。作品にはテーマがあり、それを探り出す読み方を身につける。『青い鳥』で描かれたテーマについて自分の言葉でしっかり語ることができるようになる。						
授業計画	1. 「真夜中の墓地」 2. 「未来の王国」：子どもたちの世界 3. 「未来の王国」：科学の発展という功罪 4. 「お別れのとき」 5. 「目覚め」 6. 戯曲『青い鳥』の様々な上演：モスクワ芸術座 7. 戯曲『青い鳥』の様々な上演：バレエの『青い鳥』 8. 戯曲『青い鳥』の様々な上演：アニメ『青い鳥』 9. メーテルリンクの短編戯曲『群盲』：作品の解説とその背景 10. メーテルリンクの短編戯曲『群盲』：戯曲を読む 11. メーテルリンクの短編戯曲『群盲』：戯曲の演出について 12. 『群盲』のいくつかの上演を見る。 13. 『青い鳥』と『群盲』の比較：「見える」という視点から 14. 『青い鳥』と『群盲』の比較：「子供と老人の扱い」という視点から 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回の授業の前に、知らない漢字や語彙があれば必ず調べて、自分でテキストを読み、授業後に読み返すという作業が授業参加の前提である。予習として1時間は精読に時間をかけること。また時代背景などのリサーチ課題に関してもしっかりと予習してくること。						
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら、テキストを一緒に読んでゆく（声を出して輪読する）。グループ・ワークを含めたディスカッションも行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加度や授業態度などの平常点40%、期末レポート60%で評価する。						
履修上の注意	全授業回数の3分の2以上出席しないとレポートの提出は認められない。 教科書は必ず授業開始前に購入して、第1回目の授業から毎回持参すること。						
教科書	モーリス・メーテルリンク著、江國香織訳『青い鳥』講談社、2016 ISBN 978-4-06-293540-1						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	キリスト教美術史						
担当教員	上久保 真理					科目ナンバー	A43010
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教と美術との関わりを読み解く。						
授業の概要	キリスト教と美術との結びつきは深い。同時に、目には見えない「神」という観念と、見ることを前提とする美術との隔たりは大きい。目に見えないものを解釈し、目に見えるかたちに翻訳するという矛盾に満ちた努力が、図像学的な体系を生み、キリスト教西欧の文化を押し進めてきたと言える。わたしたちは「作品」を読み解くことを通じて、キリスト教西欧における美術の意義について考えよう。						
到達目標	キリスト教西欧の美術の変容と多様化を概観し、その背景にあるキリスト教解釈と美術との深い関わりについて考察する。						
授業計画	第1回 ヨーロッパの形成とローマ帝国の崩壊 第2回 ゲルマン人とキリスト教 第3回 カロリング朝とオットー朝の美術 第4回 聖遺物崇敬・聖像理論 第5回 修道院・巡礼・十字軍 第6回 ロマネスクの建築と造形イメージ 第7回 ゴシックの建築と視覚性 第8回 ルネサンスの息吹 第9回 科学と芸術 第10回 ローマ教皇庁とマニエリスム 第11回 宗教改革とプロテスタント 第12回 反宗教改革と異端の概念 第13回 プロテスタンティズムと美術の世俗化 第14回 映画とキリスト教 第15回 キリスト教美術の行方						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業計画の各回のテーマについて、各自が前もってインターネットで検索、図書室で調べてみるなどして予習を行うこと（学習時間1.5時間）。 授業後学習：授業で取り上げた箇所の時代背景や、授業で興味を持った作品・作家について、各自がさらに掘り下げて調べてみる（学習時間1.5時間）。 授業中に告知する展覧会などへ積極的に足を運び、生の作品に触れること。						
授業方法	講義形式。 スライド、DVDなどの使用。 個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションもあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合によって評価。						
履修上の注意	私語、携帯やメールの使用、授業中の出入りは慎むこと。教室では固定席（学生番号順）とする。 希望があれば費用各自負担・自由参加で学外見学することも可能。 授業の進行状況等により、毎回の授業計画に多少の変更の可能性もある。 ※質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	鍵盤楽器／文芸との触れ合いⅣA						
担当教員	上野 静江					科目ナンバー	A22070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	音楽との触れ合い（鍵盤楽器） ～チェンバロを弾いてみよう・アンサンブルをしてみよう～						
授業の概要	17、18世紀バロック期の楽曲を中心に様々な名曲に触れ、その曲が生まれた国や時代背景、取り巻く文化環境を知るとともに、学内にある貴重な鍵盤楽器（チェンバロ・パイプオルガン）を用いて、実際に初歩的な演奏に取り組むことによって、さらにその時代の音楽の魅力に迫ります。						
到達目標	・バロック音楽の代表的な作品に触れ、当時の音楽様式、ヨーロッパの時代背景を知る。 ・初歩的な演奏技術を学び、平易な作品が演奏できるようになる。 ・楽譜に書かれた音符を、鍵盤を通して生きた音「音楽」にしていく課程を丁寧に辿ることで広がる世界を知る。 ・初歩的な通奏低音を学び、音楽によるコミュニケーション、アンサンブルの愉しさを体感することができる。						
授業計画	第1回 キャンパス内の鍵盤楽器見学 * 初回授業では、学内にあるパイプオルガン・ポジティブオルガン・チェンバロ・ピアノ等の鍵盤楽器を見学し、様々な仕組みや音色があることを学ぶ。 第2回 チェンバロについての基礎知識 * 松蔭所蔵のイタリアンチェンバロを見学しながら、そのしくみや歴史を詳しく知る。 バロック期の代表的な作品を鑑賞する。 第3回 チェンバロを弾くための基本（1）タッチ 第4回 チェンバロを弾くための基本（2）アーティキュレーション * 実際に楽器に触れてみながら一つ一つの音を作っていく課程を体感する。 第5回 「チェンバロができるまで」DVD鑑賞とまとめ * チェンバロの製造工程を知り、ヨーロッパの国による様式や音色の特徴を知る。 第6回 バロックの小曲を弾いてみよう（1）ドイツ 第7回 バロックの小曲を弾いてみよう（2）イタリア 第8回 バロックの小曲を弾いてみよう（3）フランス * バロック時代の簡単な小品の中から、各自が自分に合った曲を選び、実際に演奏しながら詳細を学ぶ。 第9回 アンサンブルをしてみよう（1）通奏低音とは？ 第10回 アンサンブルをしてみよう（2）和声付け 第11回 アンサンブルをしてみよう（3）旋律楽器と合わせてみる * ごく簡単な通奏低音に挑戦し、クラス内で実際にアンサンブルを組み、合奏を体験する。 第12回 発表会の準備（1）ソロ 第13回 発表会の準備（2）アンサンブル 第14回 発表会の準備（3）リハーサル * 各人の進度に合わせて、個別に課題（楽曲）を決め、その曲に取り組む。 また各自が選んだ楽曲に関して、その作曲家や成立の背景、また作曲家をはぐくんだ国や時代、文化環境等、調べられる限り調べ発表する。 第15回 前期クラス内発表会とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：次回授業で扱う楽曲について調べ、読譜の予習をする。具体的な内容については、毎回の授業で詳しく指示します。（学習時間：1時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。（学習時間：1時間）						
授業方法	講義および実習						
評価基準と評価方法	・平常点（60%）：毎回の授業での取り組み方、積極性、授業態度 ・レポート（20%）：理解度、学習意欲 ・発表（20%）：取り組み方、学習到達度 上記を総合的に評価						
履修上の注意	学外学習（楽器工房・楽器見学等）の可能性があります。						

教科書	毎回プリントを配布します。その中には継続的に用いるものも多いため、まとめて保管できるように、この授業のファイルを用意して下さい。
参考書	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	考古学						
担当教員	長谷川 眞					科目ナンバー	A72100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本考古学を学ぶ～考古学による日本列島史～						
授業の概要	物質文化を対象とする考古学的方法（編年論・型式論・分布論）を学び、最近の考古学研究により解明された日本列島の歴史を、各時代の主要テーマに即し旧石器時代から近代までたどる。また、神戸が日本全体の歴史に關与した地域史的なテーマも取り上げ、講義と実習（現地研修など）により、遺跡と遺物の実際に触れながら、日本考古学を学ぶ。						
到達目標	(1) 歴史研究の方法論の一つ、考古学の各種の方法を学ぶことにより、学芸員として必要な知識や思考法を身につけることができる。【知識・理解】 (2) 編年や文化論に有効な考古学的方法である型式分類などを会得し、考古資料を用いて日本歴史を時系列に沿って述べるができる。【知識・理解、汎用的技能】						
授業計画	第1回 考古学とは何か～考古学入門～ 第2回 考古遺物で語る日本史 第3回 考古学の方法～考古学的方法と自然科学～ 第4回 原始時代の暮らしとまつり～旧石器・縄文時代～ 第5回 縄文人と弥生人 第6回 弥生時代の祭祀と暮らし～魏志倭人伝の世界～ 第7回 遺跡現地実習 第8回 古墳時代の始まりと倭の五王～ヤマト政権の成立と巨大古墳～ 第9回 地方豪族の台頭と人々の暮らし 第10回 律令国家の成立と変容～飛鳥時代から平安時代～ 第11回 考古資料の展示法～博物館施設実習～ 第12回 古代の手工業生産と都鄙の生活 第13回 福原京と大輪田泊、そして中世社会～貴族文化から武家文化へ～ 第14回 近世兵庫津から近代神戸へ 第15回 総括・考古学からみる歴史像 及び 試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：日頃から月1回程度、身近にある博物館や歴史・考古資料館を見学し、遺跡の現地説明会などに参加すること。また、史跡や神社仏閣なども訪ねて、その場所の地形や歴史・地理を考える習慣をつけること。（学習時間：120分） 授業後学習：配付資料を再読し、授業内容を見直し、疑問点などをピックアップすること。（学習時間60分）						
授業方法	講義及び実習・フィールドワーク 講義は、各回授業計画に基づいた講義形式。 実習・フィールドワークは、学外での博物館等や遺跡の見学実習。その際、ディスカッションをおこなうこともある。						
評価基準と評価方法	試験40%、レポート40%、平常点20%。 試験：授業で扱った考古学に関する理解度を評価する。到達目標(1)及び(2)に関する到達度の確認。 レポート：実習結果をもとにレポートが作成できているかを評価する。その際、学芸員としての思考法を重視する。到達目標(1)に関する到達度の確認。 平常点：講義及び実習・フィールドワークを含めた授業への取り組みを、総合的に評価する。 到達目標(1)及び(2)に関する到達度の確認。 なお、試験・レポートに関する質問は、授業の前後で受け付ける。						
履修上の注意	(1) 履修の対象者：考古学、歴史学、文化財、世界遺産、日本遺産に興味や関心を持っている者 (2) 実習・フィールドワークの実施：2回ほど博物館等や遺跡を見学し、具体的に資料を観察して情報を引き出すとともに、遺跡の位置から歴史を考える方法を学ぶ。見学には、交通費と施設により入場料が必要となる。						
教科書	プリント配布						
参考書	『日本の考古 ガイドブック』、改訂版、東京国立博物館、東京国立博物館、2004年 『考古学と歴史』、第1版、白石太郎、財団法人放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-23768-3 『考古学—その方法と現状—』、第1版、泉拓良・上原真人、財団法人放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-30913-7						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広告企画編集						
担当教員	中谷 悦子					科目ナンバー	
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	広告の基礎知識の理解および表現方法の習得。						
授業の概要	広告とは、さまざまなメディアを活用し、言葉、映像、音楽を使って効果的に企業のメッセージを伝達するものです。この授業では、移り変わりゆく広告ビジネスやメディアの現況、広告制作のプロセスを理解し、広告の表現手法を学びます。広告制作の基本（コンセプトワークやコピーライティング）を学び、クリエイティブな発想力を磨くことにより、自己表現能力、コミュニケーション力の向上をめざします。						
到達目標	自分の考えやアピールポイントを、文章で効果的に表現し、相手にうまく伝えることができます。これは、就職活動や日常のコミュニケーションの円滑化にも大いに役立てることができます。						
授業計画	<前期> 1. ガイダンス（授業の概要、進め方、成績評価の方法、注意事項など）。自己紹介。 2. 広告とコミュニケーション ※広告って、なあに？ 3. 広告と産業、広告ビジネスの概要 ※広告マンって、どんな人？ 4. メディアと広告表現①（新聞・雑誌） ※話題の広告を見てみよう。 5. メディアと広告表現②（テレビ・ラジオ） ※話題の広告を見てみよう。 6. メディアと広告表現③（アウト・オブ・ホームメディア） ※話題の広告を見てみよう。 7. メディアと広告表現④（インタラクティブメディア） ※話題の広告を見てみよう。 8. 広告計画からクリエイティブワークまで ※あの広告は、どうやってできた？ 9. ブランディングとは。 ※ブランドって、なんだ？ 10. コンセプトの発見。 ※何を訴えるか？ 11. 表現アイデアとその発想法 ※どう訴えるか？ 12. プレゼンテーションの手法 ※どう売り込むか？ 13. クリエイターの現場①ゲストスピーカーによる講義。 14. クリエイターの現場② ※TVCFは、どうやってできる？ 15. 広告制作のルールと倫理 ※広告に著作権ってあるの？ <後期> 1. コピーライティングとは。 ※キャッチフレーズを作ってみよう。 2. コピーライターの資質。 ※コピーライターって、どんな人？ 3. 欧米の広告表現 ※欧米の広告、TVCFを見てみよう。 4. アジアの広告表現 ※アジアの広告、TVCFを見てみよう。 5. 日本の広告表現 ※日本の広告、TVCFを見てみよう。 6. 広告業界の現状。（ゲストスピーカーによる講義） ※広告業界の“いま”を知ろう。 7. 広告に見る企業のイメージ戦略 ※好きな企業について話してみよう。 8. クロスメディアと広告キャンペーン ※クロスメディア広告を探そう。 9. 公共広告について。 ※公共広告ってなあに？ 10. ワンコピー、ワンビジュアル ※いろんな表現方法を考えよう。 11. 広告プランニング演習（新聞広告） ※好きな企業（商品）の広告を企画してみよう。 12. 広告プランニング演習（TVCF） ※好きな企業（商品）の広告を企画してみよう。 13. 広告制作演習① ※好きな企業（商品）の広告をつくってみよう。 14. 広告制作演習② ※好きな企業（商品）の広告をつくってみよう。 15. プレゼンテーション ※自作の広告をプレゼンテーションしよう。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：ふだん何気なく見ているテレビや新聞、ネットなどの広告、街にある看板やPOPなどを意識的に見るように心がけてください。そして、心に残ったキャッチフレーズや感じたなどを心に留めておきましょう。 授業後学習：授業で学習したことのポイントをまとめ、不明点は次の授業で質問してください。また、与えられた課題を次の授業までに完成させましょう。						
授業方法	講義、広告作品鑑賞、広告企画・コピーライティング演習、ディスカッション、プレゼンテーション						
評価基準と評価方法	評価のための期末試験はおこないません。講義の中で何回か課題を出しますので、必ず提出してください。提出課題の内容、取り組む姿勢、発表力などを考慮し、総合的に評価します。						

履修上の注意	この授業では、毎回みなさんに「書くこと」をしていただきますので、「書くこと」に興味のある人が対象です。さらに自分の意見や考えを「話すこと」にもチャレンジしてください。そして広告企画を通じて、アイデアを練る楽しさや表現する楽しさを味わいましょう。
教科書	なし
参考書	小松洋支、中村卓司 監修 『新コピーライター入門』 (株) 電通 藤沢武夫 『広告の学び方づくり方』 昭和堂 岸 勇希 『コミュニケーションデザインーコミュニケーションをデザインする』 (株) 電通

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広告企画編集A						
担当教員	中谷 悦子					科目ナンバー	A7313A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	広告の基礎知識の理解および表現方法の習得。						
授業の概要	広告とは、さまざまなメディアを活用し、言葉、映像、音楽を使って効果的に企業のメッセージを伝達するものです。この授業では、移り変わりゆく広告ビジネスやメディアの現況、広告制作のプロセスを理解し、広告の表現手法を学びます。広告制作の基本（コンセプトワークやコピーライティング）を学び、クリエイティブな発想力を磨くことにより、自己表現能力、コミュニケーション力の向上をめざします。						
到達目標	自分の考えやアピールポイントを、文章で効果的に表現し、相手にうまく伝えることができます。これは、就職活動や日常のコミュニケーションの円滑化にも大いに役立てることができます。						
授業計画	<前期> 1. ガイダンス（授業の概要、進め方、成績評価の方法、注意事項など）。自己紹介。 2. 広告とコミュニケーション ※広告って、なあに？ 3. 広告と産業、広告ビジネスの概要 ※広告マンって、どんな人？ 4. メディアと広告表現①（新聞・雑誌） ※話題の広告を見てみよう。 5. メディアと広告表現②（テレビ・ラジオ） ※話題の広告を見てみよう。 6. メディアと広告表現③（アウト・オブ・ホームメディア） ※話題の広告を見てみよう。 7. メディアと広告表現④（インタラクティブメディア） ※話題の広告を見てみよう。 8. 広告計画からクリエイティブワークまで ※あの広告は、どうやってできた？ 9. ブランディングとは。 ※ブランドって、なんだ？ 10. コンセプトの発見。 ※何を訴えるか？ 11. 表現アイデアとその発想法 ※どう訴えるか？ 12. プレゼンテーションの手法 ※どう売り込むか？ 13. クリエイターの現場①ゲストスピーカーによる講義。 14. クリエイターの現場② ※TVCFは、どうやってできる？ 15. 広告制作のルールと倫理 ※広告に著作権ってあるの？						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：ふだん何気なく見ているテレビや新聞、ネットなどの広告、街にある看板やPOPなどを意識的に見るように心がけてください。そして、心に残ったキャッチフレーズや感じたなどを心に留めておきましょう。 授業後学習：授業で学習したことのポイントをまとめ、不明点は次の授業で質問してください。また、与えられた課題を次の授業までに完成させましょう。						
授業方法	講義、広告作品鑑賞、広告企画・コピーライティング演習、ディスカッション、プレゼンテーション						
評価基準と評価方法	評価のための期末試験はございません。講義の中で何回か課題を出しますので、必ず提出してください。提出課題の内容、取り組む姿勢、発表力などを考慮し、総合的に評価します。						
履修上の注意	この授業では、毎回みなさんに「書くこと」をしていただきますので、「書くこと」に興味のある人が対象です。さらに自分の意見や考えを「話すこと」にもチャレンジしてください。そして広告企画を通じて、アイデアを練る楽しさや表現する楽しさを味わいましょう。						
教科書	なし						
参考書	小松洋支、中村卓司 監修 『新コピーライター入門』（株）電通 藤沢武夫 『広告の学び方づくり方』 昭和堂 岸 勇希 『コミュニケーションデザイナー—コミュニケーションをデザインする』（株）電通						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広告企画編集B						
担当教員	中谷 悦子					科目ナンバー	A7313B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	広告の基礎知識の理解および表現方法の習得。						
授業の概要	広告とは、さまざまなメディアを活用し、言葉、映像、音楽を使って効果的に企業のメッセージを伝達するものです。この授業では、移り変わりゆく広告ビジネスやメディアの現況、広告制作のプロセスを理解し、広告の表現手法を学びます。広告制作の基本（コンセプトワークやコピーライティング）を学び、クリエイティブな発想力を磨くことにより、自己表現能力、コミュニケーション力の向上をめざします。						
到達目標	自分の考えやアピールポイントを、文章で効果的に表現し、相手にうまく伝えることができます。これは、就職活動や日常のコミュニケーションの円滑化にも大いに役立てることができます。						
授業計画	1. コピーライティングとは。 ※キャッチフレーズを作ってみよう。 2. コピーライターの資質。 ※コピーライターって、どんな人？ 3. 欧米の広告表現 ※欧米の広告、TVCFを見てみよう。 4. アジアの広告表現 ※アジアの広告、TVCFを見てみよう。 5. 日本の広告表現 ※日本の広告、TVCFを見てみよう。 6. 広告業界の現状。（ゲストスピーカーによる講義） ※広告業界の“いま”を知ろう。 7. 広告に見る企業のイメージ戦略 ※好きな企業について話してみよう。 8. クロスメディアと広告キャンペーン ※クロスメディア広告を探そう。 9. 公共広告について。 ※公共広告ってなあに？ 10. ワンコピー、ワンビジュアル ※いろんな表現方法を考えよう。 11. 広告プランニング演習（新聞広告）※好きな企業（商品）の広告を企画してみよう。 12. 広告プランニング演習（TVCF）※好きな企業（商品）の広告を企画してみよう。 13. 広告制作演習① ※好きな企業（商品）の広告をつくってみよう。 14. 広告制作演習② ※好きな企業（商品）の広告をつくってみよう。 15. プレゼンテーション ※自作の広告をプレゼンテーションしよう。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：ふだん何気なく見ているテレビや新聞、ネットなどの広告、街にある看板やPOPなどを意識的に見るように心がけてください。そして、心に残ったキャッチフレーズや感じたなどを心に留めておきましょう。 授業後学習：授業で学習したことのポイントをまとめ、不明点は次回の授業で質問してください。また、与えられた課題を次の授業までに完成させましょう。						
授業方法	講義、広告作品鑑賞、広告企画・コピーライティング演習、ディスカッション、プレゼンテーション						
評価基準と評価方法	評価のための期末試験はございません。講義の中で何回か課題を出しますので、必ず提出してください。提出課題の内容、取り組む姿勢、発表力などを考慮し、総合的に評価します。						
履修上の注意	この授業では、毎回みなさんに「書くこと」をしていただきますので、「書くこと」に興味のある人が対象です。さらに自分の意見や考えを「話すこと」にもチャレンジしてください。そして広告企画を通じて、アイデアを練る楽しさや表現する楽しさを味わいましょう。						
教科書	なし						
参考書	小松洋支、中村卓司 監修 『新コピーライター入門』（株）電通 藤沢武夫 『広告の学び方づくり方』 昭和堂 岸 勇希 『コミュニケーションデザイナー－コミュニケーションをデザインする』（株）電通						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広告表現・コピーライティング／文芸との触れ合いⅥA						
担当教員	光居 誠					科目ナンバー	A22100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広告・コピーライティングの理論と実践						
授業の概要	「広告はラブレターである」「広告はニュースである」…等、広告クリエイティブは様々な側面から語られますが、生活者（消費者）の心の動きを洞察し、いかに購買に結びつけるかを突き詰めて考えていく作業です。本授業では、広告クリエイティブのキーであるコピーについての考察を様々な角度から行っていきます。自分ならではのモノの見方や自分らしい言葉で商品やサービスを語る（伝える）作業を実践的に行いながらコピーライティングの基本を学んでいきます。						
到達目標	生活者（消費者）の心理を洞察し、どうしたら商品やサービスを好きになってもらえるか？どうしたら買ってもらえるか？を自分ならではの仮説を考え、それをわかりやすく説明することを体験し、ひとりひとりのコミュニケーション能力を向上させます。このチカラは、単に広告クリエイティブだけでなく、社会生活全般で役立つものです。また、世界の優れた広告を多く鑑賞することで、自由な発想の楽しさや可能性の大きさも理解できます。						
授業計画	第1回 オリエンテーション・広告クリエイティブで一番大切なこと 第2回 本校の学生募集広告を考えよう（クリエイティブワークショップその1） 第3回 ACCジャパンキャンペーンの研究と課題 第4回 クリエイティブワークショップその2（公共広告） 第5回 課題の商品新聞広告を考えよう 第6回 クリエイティブワークショップその3（新聞広告） 第7回 広告規制のはなし（ゲストスピーカー：JARO） 第8回 課題のテレビCMを考えよう 第9回 クリエイティブワークショップその4（テレビCM） 第10回 企業広告の課題と研究 第11回 クリエイティブワークショップその5（企業広告） 第12回 新しいサービスやモノ・店づくりから広告まで考えよう 第13回 クリエイティブワークショップその6 第14回 世界の広告潮流（2018カンヌクリエイティブフェスティバルより） 第15回 この授業のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：自分が気になるテレビCM、新聞広告、電車内吊りポスターなどを1～2点ピックアップ。ターゲット（誰に）、目的（何を）、表現方法（どのように）を考察してまとめる（学習時間2時間） 授業後学習：ワークショップでの制作課題を推敲し課題を完成させて、次回の授業で発表できるように準備する（学習時間2時間）						
授業方法	講義と実習（クリエイティブワークショップ）						
評価基準と評価方法	平常点50％・課題制作と発表50％						
履修上の注意	授業の中で、実際の広告コピー制作の課題を与えます。想像力を駆使して制作に取り組んでください。また、そのために考えた自分らしい仮説やアプローチを最重視します。						
教科書	教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。 授業に当たって、ACC（全日本CMフェスティバル）入賞作やACCジャパンキャンペーン等のCM作品を鑑賞します。						
参考書	授業の中で適宜紹介していきます。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広報広告とコミュニケーション／比較文化VA						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A32060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広告・広報（PR）活動の理解						
授業の概要	広告・広報（PR）活動についての基本的な知識を習得することを目指します。私たちはふつう広告や広報を受け取る側において、それらがどのようにして制作されているのかを知る機会がほとんどありません。しかし、広告や広報が私たちに届けられるまでには多くの人や組織が関わり、多大な時間とお金がかかれています。この講義では、広告の分類や広告に関わる組織、広告計画、広告関連の法規や規制、広報の多様性など、広告・広報活動を理解するために必要な基礎的な知識を学びます。実際にテレビCMや雑誌広告、ネット広告、広報活動などを見ながら解説していきたいと思います。						
到達目標	（１）広告や広報の送り手（広告主・広告会社）がどのような流れで広告・広報を制作しているのか、その実務的なプロセスについて体系的な知識を習得することができる。【知識・理解】 （２）実際の広告物を専門用語を使って分析できる。【汎用的技能】						
授業計画	1 イントロダクション 2 広告とは何か 3 マーケティングと広告 4 広告主と広告会社 5 広告費 6 広告表現 7 広告媒体 8 ブランド・コミュニケーション 9 広告関連の法規と規制 10 インターネット広告 11 広報（PR）の基本 12 地域社会と広報 13 イベントと広報 14 レポート検討会 15 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： 各回授業で扱うテーマに関するニュースや新聞記事を下調べする。（学習時間：1時間） 授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点を確認・整理する。（学習時間：1時間）						
授業方法	講義。基本的には解説・講義を行う。一部、簡単なグループワークをする機会を設ける。						
評価基準と評価方法	期末レポート 70%： 授業で学習した内容を踏まえたレポートが作成できているか評価する。到達目標（１）および（２）の到達度の確認。 授業態度 30%： 各回提出のリアクションペーパーの内容・記述の的確さを評価する。到達目標（１）の到達度の確認。 なお、第14回にレポート検討会を実施し、レポート内容に対する評価をフィードバックする。						
履修上の注意	後期の「広報広告と社会／比較文化VB」と合わせて受講することが望ましい。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書	岸志津江・田中洋・嶋村和恵、『現代広告論〔新版〕』、有斐閣、2008年 日本パブリックリレーションズ協会編、『改訂版 広報・PR概論』、同友館、2012年						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広報広告と社会／比較文化VB						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A32070
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広告（広報）に関する基礎的な知識の応用						
授業の概要	本講義では、広告（広報）の基礎的な知識をもとに、社会において広告がどのように役立っているのかを多角的に理解しつつ、実際の広告物の制作へとつなげていくことを目指します。まず、映画やソーシャルメディアを事例に、広告（広報）の役割をさまざまな角度からみていきます。また、それらのトピックごとに広告（広報）を企画することによって、広告制作がどのようなものなのかについて実践的に学びます。これらを踏まえたうえで最後に、簡単な広告をつくることに挑戦してもらいます。						
到達目標	（１）映画やソーシャルメディアにおける広告（広報）の役割について多角的に理解できるようになる。【態度・志向性】 （２）広告（広報）の企画や制作を通じて、情報を取捨選択し、まとめ、自分のアイディアを発信するための力を身につけます。【汎用的技能】						
授業計画	1 イン트로ダクション 2 映画と広告（１）：ジブリ映画の広告① 3 映画と広告（２）：ジブリ映画の広告② 4 映画と広告（３）：製作委員会方式 5 映画と広告（４）：映画広告の企画 6 ソーシャルメディアと広告（１）：『トウルーマン・ショー』鑑賞 7 ソーシャルメディアと広告（２）：『トウルーマン・ショー』解説 8 ソーシャルメディアと広告（３）：ネット時代の消費と広告 9 ソーシャルメディアと広告（４）：イベントの企画 10 広告をつくる（１）：広告の表現方法を学ぶ 11 広告をつくる（２）：広告コンセプトを決める 12 広告をつくる（３）：広告の表現方法を決める 13 広告をつくる（４）：広告を完成させる 14 制作課題発表会 15 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	原則として授業時間内で広告企画や広告制作など、すべての学習を行う。 授業後学習： 授業時間内で完成できなかった人は、次の回までに完成させておくこと。（学習時間：２時間）						
授業方法	講義。基本的には解説・講義を行う。 広告企画や広告制作に際しては、個人やペアによるワークをする。						
評価基準と評価方法	制作課題 50%： 広告（広報）制作を通じて、自分のアイディアを発信できているか評価する。到達目標（２）の到達度の確認。 広告企画 20%： 広告（広報）の企画を通じて、現代社会におけるそれらの役割が理解できているかを評価する。到達目標（１）の到達度の確認。 授業態度 30%： 各回提出のリアクションペーパーの内容・記述の的確さを評価する。到達目標（１）および（２）の到達度の確認。 なお、第14回に制作課題発表会を実施し、制作物に対する評価をフィードバックする。						
履修上の注意	前期の「広報広告とコミュニケーション／比較文化VA」と合わせて受講することが望ましい。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	諸芸術の交流／比較文化ⅠA						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ－	A32010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	19世紀から20世紀にかけての文芸の流れ						
授業の概要	20世紀初頭に始まった文学（小説）の変貌が、絵画、音楽、映画などの諸ジャンルの変貌と連動したものであったことを、有名作品を解説しながら跡付けて行く。						
到達目標	19世紀から20世紀にかけての文芸ジャンル変貌の流れを説明することができる						
授業計画	1. 導入、授業計画の説明 2. 19世紀小説の特徴（1）バルザック 3. （2）写実主義の小説 4. （3）自然主義の小説 5. 19世紀小説への疑問（1）全能の作者の問題 6. （2）アンドレ・ジッドの『贋金つかい』 7. （3）ヌーヴォー・ロマン 8. 20世紀イギリスの小説 9. フランス印象派の絵画 10. 19世紀末のヨーロッパ社会と音楽 11. 第2次世界大戦前後のヨーロッパ社会と音楽 12. 第2次世界大戦以前の映画 13. ヌーヴェルヴァーグ映画の革新 14. ヌーヴェルヴァーグとフランス文学 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	普段から、できる限り外国の文芸（美術、音楽、小説、演劇etc）に触れる。（30時間）						
授業方法	講義：毎回、テーマに沿った概説を行った後、理解度と知識を問う質問を行う、あるいは、概説と並行しながら、質疑応答形式で授業を進める。						
評価基準と評価方法	平常点56％、テスト44％ ・平常点は授業中の質疑応答の内容（正確さ、独自性など）に応じて評価する。 ・筆記試験は、授業内容の理解度を問う問題を出題する。 ・講義内容や評価に関する質問は、授業の前後、及びオフィスアワーで受け付ける。						
履修上の注意	欠席5回で失格とする。						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	ジャーナリズムの表現／文芸との触れ合いVIB						
担当教員	佐藤 千晴					科目ナンバ－	A22110
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	・ジャーナリズムの文章に親しむ ・新聞、テレビ、インターネットなどのニュースを読み解く力をつける						
授業の概要	ジャーナリズムやノンフィクションの文章に親しむために、新書を計5冊を読破します。2019年度は「フェイクニュース」をテーマに、ネットメディアについて学ぶところからスタートします。新書2冊をゼミ形式で一緒に読みます。授業外でも学生それぞれが自由に選んだ最低3冊を読み、レポートを書いてもらいます。他にも課題を随時、出します。授業では毎回、新聞記事やインターネットのニュースも精読します。						
到達目標	・ジャーナリズムやノンフィクションの文章を読み解ける ・ネットメディアの特質を理解できる ・本を読むこと、文章を書くこと、ニュースに接触することが生活習慣になる						
授業計画	第1回 ガイダンス／教科書の概説／講義「新書」とは何か 第2回 教科書「ネットメディア覇権戦争」を読む①著者を知る／授業外課題図書①を決める 第3回 教科書「ネットメディア覇権戦争」を読む② 要約してみる／共通図書A（2冊目の教科書）を決める 第4回 教科書「ネットメディア覇権戦争」を読む③ 自分の「ポイント」を探す 第5回 教科書「ネットメディア覇権戦争」を読む④ 自分の「ポイント」を発表／授業外課題図書①のレポート提出 第6回 教科書「ネットメディア覇権戦争」を読む⑤ 参考文献へ広げる／授業外課題図書① プレゼンテーション／授業外課題図書②を決める 第7回 教科書「ネットメディア覇権戦争」を読む⑥ 収穫を書き出す 第8回 共通図書Aを読む① 構成をつかむ／授業外課題図書② プレゼンテーション 第9回 共通図書Aを読む② ポイントをつかむ／授業外課題図書②のレポート提出 第10回 共通図書Aを読む③ 社会との関連を探る／授業外課題図書③を決める 第11回 共通図書Aを読む④ 「読み方」を交換する 第12回 共通図書Aを読む⑤ 関連図書と比べる／授業外課題図書③ プレゼンテーション 第13回 共通図書Aを読む⑥ まとめ／授業外課題図書③のレポート提出 第14回 共通図書A レポート提出 第15回 共通図書A振り返り／授業のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業外でも10月～12月の3カ月間に新書計3冊を読み、1冊ごとにレポートを提出、授業で発表（プレゼンテーション）します。何を読むかは学生それぞれが選び、教員と相談の上で決定します毎日1時間程度の学習が必要となります。						
授業方法	ゼミ形式です。能動的な発表や質問を重視します。						
評価基準と評価方法	・テストはありませんが、授業への参加度（出席数・発言など）30%、共通図書2冊のレポート40%、授業外課題図書3冊のレポート40%、授業への参加度（積極的な発言など発言など）20%の割合で評価します。 ・出席10回以上を単位習得の必須条件とします。						
履修上の注意	第1回授業に必ず教科書を持参してください。 共通図書Aは10月中に決定しますので、各自、書店でd購入してください。 授業で使う教科書・課題図書はアンダーラインなど記入が多くなるので、図書館で借りずに必ず購入してください。						
教科書	藤代裕之「ネットメディア覇権戦争 偽ニュースはなぜ生まれたか」（光文社新書、800円＋税） ISBN 978-4-334-03966-0						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	随筆とコラムの技法						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	A22020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	素晴らしい随筆の執筆						
授業の概要	様々な随筆のあり方を学びことによって、自分の思いを的確に表現するすべを獲得する						
到達目標	文芸の学びによって身につけた知識とことばの力を自己啓発の基盤とし、生涯にわたって学び続けようとする姿勢を保持することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 随筆とは？ 第2回 コラムとは？ 第3回 エッセイとは？ 第4回 浅田次郎の文章 第5回 夢枕獏の文章 第6回 赤瀬川原平の文章 第7回 小栗康平の文章 第8回 乃南アサの文章 第9回 小池真理子の文章 第10回 三田誠広の文章 第11回 村山由佳の文章 第12回 藤本義一の文章 第13回 野坂昭如の文章 第14回 平岩弓枝の文章 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉学に100時間程度は必要であろう。						
授業方法	学生の関心に応じた発表を中心とする						
評価基準と評価方法	筆記試験50%と日常的な授業に対する取組状況等の評価50%						
履修上の注意	好奇心を旺盛にして積極的な授業参加を心がけること						
教科書	きみと出会えたから（PHP文芸文庫） ISBN 978-4-569-76455-9 2015119						
参考書	授業中に適宜指示する						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西欧芸術と文化／文芸講読ⅠA						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ－	A12010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸批評を通して、絵画の鑑賞と分析の方法を学ぶ。						
授業の概要	小林秀雄の近代絵画を論じた文芸評論を精読する。						
到達目標	フランス印象派の絵画とその魅力について説明できる。						
授業計画	1. 導入と授業計画 2. 評論「モネ」 (1) 光 3. 同 (2) 自然 4. 同 (3) バルビゾン派 5. 同 (4) ターナー、ドラクロワ 4. 評論「セザンヌ」 (1) プロフィール 5. 同 (2) 自然 6. 同 (3) 光 7. 同 (4) 色彩 8. 評論「ゴッホ」 (1) プロフィール 9. 同 (2) 作品 10. ワグナー 11. ボードレー、象徴主義 12. 評論「ピカソ」 13. ゴッヤ、ペラスケス 14. レンブラント 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・美術展に通うこと。（15時間） ・TVの美術関連番組（「日曜美術館」など）を見ること。（15時間）						
授業方法	講義 画家や文学者、音楽家の経歴を紹介しながら、テキストを読んで行く。 有名作品の画像を見る。 理解度と知識を問う質問を行い、疑応答形式で授業を進める。						
評価基準と評価方法	平常点56％、テスト44％ ・平常点は授業中の質疑応答の内容（正確さ、独自性など）に応じて評価する。 ・筆記試験は、授業内容の理解度を問う問題を出題する。 ・講義内容や評価に関する質問は、授業の前後、及びオフィスアワーで受け付ける。						
履修上の注意	欠席5回で失格とする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西洋演劇史／文芸特殊講義VA						
担当教員	枡井 智英					科目ナンバー	A43040
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	演劇の歴史と現代演劇との関係を学ぶ						
授業の概要	西洋演劇の概説を含め、ドラマとシアターの諸要素を学ぶ。代表的な劇作家の作品を、その時代背景、または上演技術の発展などの要素も含めて紹介し、現在の演劇とも結びつけた考察も行う。						
到達目標	戯曲と上演の結びつきをよく理解し、演劇学研究に必要な基本的知識を身につける。演劇の発展の中で登場する重要な演劇人について自分の言葉でしっかり語ることができるようになる。						
授業計画	1. 文芸と演劇について 2. ルネサンス期：シェイクスピア① 『ハムレット』と現代映画 3. ルネサンス期：シェイクスピア② 『ヘンリー5世』と現代映画 4. ルネサンス期：シェイクスピア③ 『ロミオとジュリエット』と現代映画 5. ルネサンス期：シェイクスピア④ グローブ座とその演劇性 6. 中世：大道芸とその現在 ①海外のオーディション番組を見て 7. 中世：大道芸とその現在 ②チャップリンからローワン・アトキンソンへ 8. 近代：イブセン① イブセンについて 9. 近代：イブセン② 『人形の家』に見られるドアのテクニク 10. 近代：自然主義から表現主義までの流れ 11. 近代：象徴主義・不条理演劇 ① 不条理劇について 12. 近代：象徴主義・不条理演劇 ② メーテルリンクとベケットの作劇術 13. 現代：ブレヒト① 叙事演劇について 『コーカサスの白墨の輪』の紹介 14. 現代：ブレヒト② 現代劇への影響について 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	渡されたテキストの予習。予習で渡されたテキストは各自しっかり読んでおくこと。予習には1時間以上の時間をかけましょう。また課題が出た場合、図書館を積極的に利用し、関連DVDの視聴や関係書籍を読んでみてください。						
授業方法	主として講義、実際にテキストを読む場合もある。ディスカッションを積極的に行いながら授業を進める。						
評価基準と評価方法	平常点・提出物（50％）、期末レポート（50％）						
履修上の注意	正当な理由がないと遅刻は認めません。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	参考文献は、テーマごとに講義期間中に適宜紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西洋の近現代演劇／文芸講読VIB						
担当教員	栢井 智英					科目ナンバー	A12080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	戯曲の作劇術を俳優の演技という視点から考える。（レジナルド・ローズ『12人の怒れる男』の作劇術と演技について）						
授業の概要	舞台『12人の怒れる男』の舞台上演台本は、映画『12人の怒れる男』のシナリオを基に構成されている。このクラスでは、1957年製作の映画版を中心に俳優の演技（行動）分析から、どのように人物の性格が読み解けるか検証し、さらには作品のテーマの一つである「民主主義制度」という視点から、冷戦中に製作された1957年版と冷戦後に製作された1997年版を比較し、その相違を考察する。						
到達目標	戯曲分析や上演分析を俳優の演技という視点から行う基礎能力を身につける。映像言語として俳優の動きの重要性とその役割をしっかりと自分の言葉で語ることができるようになる。						
授業計画	1. 作品とその背景 2. 映画作品と戯曲について 3. 映画『12人の怒れる男』（1957年版）を見る。① 作品解説とビデオ鑑賞 4. 映画『12人の怒れる男』（1957年版）を見る。② ビデオを見て事件の詳細について情報収集 5. 演技を考える：与えられた状況（演じる役） 6. 演技を考える：与えられた状況（演技する環境） 7. 演技を考える：キャラクター分析と内容理解① スイッチナイフに関する討論場面より 8. 演技を考える：キャラクター分析と内容理解② トイレ休憩の場面より7番と8番を中心に 9. 演技を考える：キャラクター分析と内容理解③ 前半の2番、5番、11番を中心に 10. 物語の展開と作品の背景について 11. 映画『12人の怒れる男』（1997年版）の特徴と時代背景 12. 映画『12人の怒れる男』（1997年版）を見る。 13. 1957年版と1997年版の登場人物の比較① 11番の比較 14. 1957年版と1997年版の登場人物の比較② 2番、4番、7番を中心に 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	テキストの予習。難しい感じが多いので予習には時間をかけてください。予習として戯曲の精読に1時間以上はかけましょう。また、その時々に出される課題もきっちりこなしてください。評価の対象となります。						
授業方法	ビデオ鑑賞と講義が中心。演技の分析ワークも行う。						
評価基準と評価方法	授業の平常点（40％）期末レポート（60％）						
履修上の注意	正当な理由がないと遅刻は認めません。						
教科書	適宜プリントを配布。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西洋文芸と映画／文芸講読ⅠⅢA						
担当教員	平川 大作					科目ナンバー	A12030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	西洋文芸と映画 『夜の来訪者』を中心として						
授業の概要	イギリスの劇作家J・B・プリーストリー（1894生／1984没）の戯曲『夜の来訪者』（An Inspector Calls、1945年発表）は、ミステリーの傑作として名高く、現在でも世界中で上演され続けている。この授業では、「名探偵謎もの」の代表例として本作を取り上げ、実際にせりふを（日本語で）声に出して読むという作業を通して講読を進める。また、クリスティの『ねずみとり』や刑事コロンボの原型とされる『殺人処方箋』など、他のミステリー戯曲を比較対象としてとりあげたい。						
到達目標	戯曲形式の文学テキストの読解能力を高めることができる。言語と映像それぞれの表現の特質について分析的に考察できるようになる。20世紀ミステリーの物語的な意義を把握する。						
授業計画	第1回：単位認定の説明、戯曲形式の基礎、演劇の作り方、ミステリーというジャンル 第2回：『夜の来訪者』リーディング実践Ⅰ 第一幕 第3回：『夜の来訪者』リーディング実践Ⅱ 第二幕 第4回：『夜の来訪者』リーディング実践Ⅲ 第三幕 第5回：『夜の来訪者』リーディング実践 ふりかえりとまとめ 第6回：『夜の来訪者』映像鑑賞 前半 第7回：『夜の来訪者』映像鑑賞 後半 第8回：『ねずみとり』紹介 リーディング実践Ⅰ 第9回：『ねじみとり』リーディング実践Ⅱ 『夜の来訪者』との比較 第10回：『殺人処方箋』紹介 リーディング実践Ⅰ 第11回：『殺人処方箋』リーディング実践Ⅱ 第12回：『刑事コロンボ』映像鑑賞 前半 第13回：『刑事コロンボ』映像鑑賞 後半 第14回：名探偵ミステリーの広がりと言語 第15回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	リーディング実践で扱うテキストは、繰り返し、内容を吟味しながら事前に読んでおく必要があります。これを予習として各授業毎に30分から1時間程度費やすことが求められます。また、その作業の延長線上で、物語の背景にある文化、習慣、時代風俗などで分からないこと、知らないことがあれば、それらを調べて授業で報告できるように準備しておくように。時間にして30分程度を想定しています。授業に関連のありそうな小説／映画／マンガ／アニメなどの鑑賞を強く推奨します。これらは楽しさをもって、時間の制限なしに貪欲に取り組んでくれることを期待しています。						
授業方法	戯曲テキストの音読とディスカッションをメインとした講義、授業内で実際に声を出して、せりふを読み上げます。声を出すのが好きな受講生に推奨します。						
評価基準と評価方法	各授業での実践（朗読）／発言60%、学期末レポート30%、ボーナス評価10%。						
履修上の注意	授業回数3分の2以上の出席が必要。各講義における積極的な実践（朗読）／発表を評価します。授業について質問等はいつでも dhira@otemae.ac.jp までお気軽に。						
教科書	プリーストリー『夜の来訪者』（岩波文庫）は各自購入してください。ほかの作品のテキストは授業で適宜、必要な分を配布します。						
参考書	探偵が登場するさまざまな物語						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸ⅠA						
担当教員	多賀谷 真吾・西岡 恒男					科目ナンバ－	A0105A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	現代のイギリス・フランスの文学と文化						
授業の概要	【前半】 担当者：多賀谷 真吾 テーマ：文芸としての英米文学 英米文学における詩と劇の話をする。具体的には、シェイクスピアの劇、ワーズワスのロマン派の詩、そしてマザー・グースなどである。詩を身近に感じて、親しんでもらうことがこの授業の最大目標である。文学としてではなく、文芸としての詩の面白さを紹介するが、そのひとつのやり方として、後半の授業では、詩が映画という他の芸術領域と密接な関係を持つことを指摘する。 【後半】 担当者：西岡 恒男 テーマ：フランスの自伝を読む：ルソー『告白』について 思想家ジャン=ジャック・ルソー（Jean-Jacques Rousseau, 1712-1778）の『告白』（Les Confessions, 1782 et 1789）を取り上げる。誰でも一度は「自分とは何者か？」と考えたことがあるだろう。本講義では『告白』を読むことで、ルソーという作家＝他者の生き方を知り、物語を通じて各自のこれからの人生を豊かにする多様な視点を養うことを目指したい。また、manabaを活用して現代の女性作家の自伝も取り上げたい。具体的には、アゴタ・クリストフ（Agota Kristof, 1935-2011）の『文盲』（L'Analphabète, 2004）を紹介し、『告白』との比較を行うことにする。						
到達目標	近現代のイギリス・フランスの文学と文化を理解できる。						
授業計画	担当者：多賀谷 真吾 第1回：イントロダクション 第2回：英語の詩ってどんなもの？ 第3回：マザーグースとは？ 第4回：詩人と自然—ワーズワス 第5回：シェイクスピアの言葉の力 第6回：詩と映画の深い関係（1）『いまを生きる』 第7回：詩と映画の深い関係（2）『マディソン郡の橋』 第8回：まとめと結論 担当者：西岡 恒男 第9回：自伝とはなにか？ 第10回：ルソーとはだれか？ 第11回：なぜ『告白』を書いたか？ 第12回：どのように『告白』を書いたか？ 第13回：自己の確立 第14回：ヨーロッパにおける近代的自伝の成立 第15回：なぜ自伝を読むのか？						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【前半】毎週、プリントの内容について受けた講義内で出された設問について、翌週までに該当する文芸作品の日本語翻訳等を活用しながら、作品解説と感想の文章を400字程度で作成すること（学習時間：2時間）。 【後半】 授業前準備学習：manabaを活用して各回授業のテーマに沿った予習を行い、授業にのぞむこと。具体的には、授業で扱う『告白』とmanabaで扱う『文盲』の違いを比較し、manabaを通じて解答すること（学習時間2時間） 授業後学習：レポート作成に役立つようにmanabaを通じて授業で取り上げた内容を整理し、理解を深めること。具体的には、今日のツイッター、フェイスブック、インスタグラムなどにおける「つぶやき」と文学的自伝の違いをまとめ、レポート提出の準備をとすること。（学習時間2時間）						
授業方法	2人の講師によるオムニバス形式の講義 【前半】 毎回とりあげる英語の文芸作品の考察、感想について発表（プレゼンテーション）をしてもらう。 【後半】 本講義のねらいは、一方で授業で『告白』を扱い、他方でmanabaで『文盲』を扱うことにより、自伝というテーマを複数の視点から考察することにある。さらに、上記の通り、ツイッターなどの今日のツールも取り上げることで、現代社会とつながりをもたせ、受講者の積極的な考察を促すようにしたい。また、こうした授業内容の理解を深めるため、ディスカッションも行う予定である。						
評価基準と評価方法	【前半】 毎回のリフレクションペーパー20%、プレゼンテーション10%、レポート70%で評価。 【後半】 平常点（質疑応答など）20%、manaba30%、リアクションペーパー提出20%、レポート30% ※2人の講師が出した評点の平均値によって成績が決定される。						

履修上の注意	私語厳禁。各講師の授業において、欠席は3回まで。 ※質問は授業の前後で受け付けます。 後半の担当者（西岡）は火曜3限も別の授業を担当するため、相談がある場合は授業後に受けつける。
教科書	プリントを配布
参考書	授業中に紹介

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸ⅠB						
担当教員	松下 則子・浦部 依子					科目ナンバー	A0105B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ロシア文化史と中国近現代文学概論						
授業の概要	【前半】担当者：松下 則子 19世紀から20世紀にかけてのロシアの文学とその翻訳のありかたについて概説する。また、ロシア文学の影響を受けたとされる日本文学の作品をいくつか取り上げ、読み比べを行う。 【後半】担当者：浦部 依子 アヘン戦争（1840）を起点に辛亥革命や五・四運動を経て、それまでの中国文化の体系は大きく変化した。五・四以降、内外の複雑な政治状況の中で胚胎した新しい文学は、現代中国に託されたある文学方向を確実に形成していった。本講義は、清末から五・四運動（1919）前までの中国近代文学の状況と、五・四運動から新中国の成立（1949）までの現代文学の状況、およびそれ以降の文芸上の重要事項をとりあげ、中国近現代文学の誕生の周辺とその諸相について講じる。 講義で取り扱う新しい文学の基礎は、文言に替わる口語体の文章の提唱など、中国伝統文学の特質とは異なるものであるが、その一方で変わることのない共通点がある。それは、中国文学はおおよそ何れの時代においても、政治を抜きにしては述べ難いという点である。 毎回の講義では、各時期の社会背景を概説したのち重要な作家を取りあげ、作品解釈や討論などを通して、時代の作家が表現しようとしたものについての考察を進めてゆく。						
到達目標	担当者：松下 則子 近現代のロシアの文学作品を通じて見えてくるロシアの文化、生活を知ることにより、文学を通じた異文化交流の新しいありかたを探ることができる。 担当者：浦部 依子 中国近現代文学の概要と時代背景を領略して、その時々重要な作家と作品に親しみ、3年次以降の学びの基礎を築くことができる。						
授業計画	担当者：松下 則子 第1回：ロシア・ロシア語概要 第2回：ロシア文学史概観 第3回：プーシキン「花心蝶思録：露国奇聞（大尉の娘）」（高須治輔訳） 第4回：ツルゲーネフ「あひゞき」（二葉亭四迷訳） 第5回：プーシキン「スベードの女王」と芥川龍之介「魔術」 第6回：ゴーゴリ「外套」と芥川龍之介「芋粥」 第7回：アニメ「チェブラーシカ」ソ連版と日本版 （取り上げる作品や作家は、変更することがあります。） 担当者：浦部 依子 *取り上げる作家や作品は、変更することがある。 第8回 中国文学史における近現代文学の位置と特質 第9回 清末の社会背景と文学（梁啓超「太平洋遇雨」・女流作家秋瑾「滿江紅」） 第10回 中華民国期の社会背景と文学（文学の革命・五四新文化運動・胡適・陳独秀・魯迅「狂人日記」） 第11回 中華民国期の文学（革命の文学・女流作家謝冰心「二つの家庭」・魯迅「阿Q正伝」・郭沫若） 第12回（小テスト①実施） 中華民国期の文学（茅盾「子夜」・巴金「家」・老舍「駱駝祥子（らくだのシアンツ）」・女流作家たち：丁玲・張愛玲 cf. 女優 李香蘭） 第13回 中華人民共和国（新中国）成立期の社会背景と文学（毛沢東、文芸講話と人民文学・趙樹理） 第14回 文化大革命期の文芸（歴史戯曲 呉晗「海瑞罷官」・文化大革命・革命歌劇「白毛女」） 第15回（小テスト②実施） 近現代文学のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	担当者：松下 則子 ①シラバスに挙げた作品をあらかじめ読んでおくことが望ましい。 ②ロシアの歴史と文化について、文献やインターネットや映画から、積極的に予備知識を得て、授業に参加すること。 担当者：浦部 依子 授業前準備学習： ①各回の講義前に、コースパックを熟読しておく。（学習時間90分） ②取り上げる作家・作品・時代について、訳書・参考文献・ネット・動画などで予め調べ、効果的な研究につなげる。（学習時間60分） 授業後学習：講義内容復習（学習時間60分）						
授業方法	松下：文学講義（討論を含む） 浦部：文学講義（映像資料によるレビュー・討論を含む）						

評価基準と評価方法	二人の担当者が出した評点の平均値によって決定する。 担当者：松下 則子 平常点50%（出席率、積極的な授業参加）、レポート50%で評価する。 担当者：浦部 依子 ・平常点50%（討論・発言と各回提出のワンミニッツペーパー・積極的な授業参加）、小テスト2回50%で、総合的に評価する。 ・小テストは、講義内容を問う客観と主観の問題から成り、約20分で提出する。 ワンミニッツペーパーや小テストなど、課題に対するフィードバックの方法：必要に応じて翌週時に対応する。
履修上の注意	私語厳禁。各担当者の授業において、欠席は3回まで。 担当者：松下 則子 ・出席を重視する。意見発表等、授業に積極的に参加してほしい。 *質問は授業の前後で受け付ける。 担当者：浦部 依子 ・出席を重視する。 ・講義で扱う「狂人日記」や他作品の訳書は、できる限り目を通しておくこと。 *質問は授業の前後で受け付ける。
教科書	担当者：松下 則子 プリントを配布 担当者：浦部 依子 ・コースバックを使用する。
参考書	担当者：松下 則子 シラバスに挙げた作品は大学図書館、公共図書館で見つけられます。翻訳の新旧は問いませんので、目を通すようにしておいてください。 担当者：浦部 依子 参考文献と訳書（抜粋）： 1) 吉田 富夫『中国現代文学史 一九一五-四九』朋友書店 1997 ISBN-10: 4892810517 2) 藤井省三/大木康『新しい中国文学史』京都：ミネルヴァ書房1997 ISBN-10: 4623027503 * 第II部近現代の中国文学p102~ 3) 鲁迅著/竹内好訳『阿Q正伝・狂人日記 他十二篇（呐喊）』東京：岩波書店1981 ISBN-10: 400320252X 4) 山田敬三『魯迅の世界』東京：大修館書店 1977 ISBN-10: 4469230278 5) 芦田肇主編/丸山昇監修『中国現代文学珠玉選 小説〈1〉』東京：二玄社 2000 ISBN-10: 4544030366 6) 佐治俊彦主編/丸山昇監修『中国現代文学珠玉選 小説〈2〉』東京：二玄社 2000 ISBN: 4-544-03037-4 7) 白水紀子主編/丸山昇監修『中国現代文学珠玉選 小説〈3〉』東京：二玄社 2001 ISBN: 4-544-03038-2 8) 『中国現代文学選集』（全20巻）東京：平凡社 1962~1963 9) 『現代中国文学全集』（全15巻）東京：河出書房1954~1958 10) 丸山昇、伊藤虎丸、新村徹編『中国現代文学事典』東京：東京堂出版1985, 1996 ISBN: 4490102011 11) 鲁迅作・竹内好訳『阿Q正伝・狂人日記他十二篇（呐喊）』東京：岩波書店・岩波文庫1981年版 12) 章培恒・駱玉明主編『中国文学史 新著』（全三冊）上海：復旦大学出版社2007 13) 山田敬三『魯迅—自覚なき実存』東京：大修館書店2008 ISBN-10: 4469232521

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸ⅡA						
担当教員	釣 馨・宮田 玲					科目ナンバー	A0206A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典となっている世界の文学や芸術作品について学ぶ。 前半担当者・釣馨のテーマは、「ヨーロッパ中世から17世紀までの古典文芸」 後半担当者・宮田玲のテーマは、「古代オリエントの文芸作品」						
授業の概要	2名の教員によるオムニバス講義である。各担当者の授業の概要は以下の通り。 担当者 釣 ヨーロッパ中世から17世紀までの古典文芸の特徴を理解することを目的とする。ヨーロッパの古典文芸はギリシャ・ローマ文化とキリスト教文化という2つの大きな潮流に根を下ろしているが、授業では各時代の社会状況にも触れながら、テーマに沿って作品を概観する。 担当者 宮田 古代メソポタミア、シリア・パレスティナ、エジプトでは多くの文芸作品が生み出された。ここには、いかに古くから人類が文字を用い、文芸作品を残してきたかを見ることが出来る。講義では、古代メソポタミア（バビロニア、アッシリア）と古代エジプトから代表的な物語をいくつか取り上げ、時代背景の解説をまじえて読みすすめていく。また、当時の文字である楔形文字やヒエログリフのほか、文芸作品のテーマとかかわる美術作品についても紹介する。						
到達目標	世界の古典的な作品の紹介と解説を受けて、テキストを自分なりに読み解き、鑑賞することができるようになる。						
授業計画	担当者：釣馨 第1回 ヨーロッパの地域・歴史・文化 第2回 地獄から天国へ：ダンテ『神曲』 第3回 生きている人々の姿：ボッカチョ『デカメロン』 第4回 演劇と教会の対立：モリエール『ドン・ジュアン』 第5回 近代小説の萌芽：ピカレスク小説 第6回 ペロウの『童話集』と新旧論争 第7回 講義のまとめ、筆記試験 担当者：宮田玲（全体を通して第8回目、後半部の第1回となる） 第8回 古代メソポタミアの風土と歴史。 第9回 エヌマ・エリシュ・バビロニア創造神話— 第10回 アトラ・ハシス—大洪水物語— 第11回 ギルガメシュ叙事詩—英雄ギルガメシュの生と死— 第12回 小テスト。ハンムラビ法典—古代の判決集— 第13回 古代エジプトの風土と歴史。 第14回 古代エジプトの神話。ヒエログリフ（エジプト聖刻文字）と芸術表現。 第15回 アテン賛歌—太陽神信仰—						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	担当者 釣 配布資料の熟読、前回の内容をまとめる。（所要時間：30分） 担当者 宮田 配布資料の熟読、前回の内容をまとめること。（所要時間：30分）						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	担当者 釣 毎回講義の最後に時間を取るため、指定の用紙に講義内容のまとめと自分の意見を書く。最終授業で筆記試験を行う。平常点50%（指定の用紙に書くまとめと意見）＋筆記試験50% 担当者 宮田 レポート約60%：授業で取り上げた内容にかかわる課題をいくつか提示して、授業の理解度を評価する。 平常点約40%：文芸作品の朗読による授業参加と小テストに加え、時折レスポンスペーパーの提出を求める。レスポンスペーパーや質問等へのフィードバックは次の授業内で行なう。						
履修上の注意	担当者 釣 まとめと意見を書く指定の用紙を配布する。 担当者 宮田 補足のプリントを配布する。出席者のみ受け取ることができる。						

教科書	担当者 釣 講義開始日に配布する資料「世界の文芸Ⅱ」。 担当者 宮田 講義開始日に配布する資料「世界の文芸Ⅱ」。随時、補足のプリントを配布する。
参考書	授業時に指示する。

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸ⅡB						
担当教員	浦部 依子・木下 昌巳					科目ナンバー	A0206B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	【前半】担当者：浦部 依子 「中国古典戯曲のヒロインたち」 【後半】担当者：木下 昌巳 「古代ギリシアの文明」						
授業の概要	【前半】担当者：浦部 依子 中国文学には各時代が誇る代表的なジャンルがあり、時代がくだるにつれこれらジャンルの花々が豊かに咲きそろいます。まず漢代の「賦」と唐代の「詩」の成就があります。宋代には音楽を伴う歌詞を意識した「詞（ツ）」が栄え、元の時代の雑劇「曲」は中国文学史に新風を吹きこみました。続いて明清には「小説・戯曲」の盛行を見ました。さて、この講義で扱う女性や両性（男女）関係に関する文学主題は、おもに元明清を代表する、より後発的な戯曲・小説のジャンルにおいて、ひときわ精彩を放っています。 本講義では、中国文学の特質と文学史における戯曲文学の位置を講じたのち、毎回ひとつの戯曲の名作を紹介し、ヒロインの時代と意識の探討や映像資料による鑑賞と討論、さらに名場面の文学表現の発表を通して、中国古典戯曲文学におけるヒロインの主体意識を、多面的に考察します。 【後半】担当者：木下 昌巳 古代ギリシアの文化は、ヨーロッパにおいては、学問・芸術など広範囲に渡って、キリスト教と並びヨーロッパの文化全体の源泉というべき地位を担い、諸方面にわたって圧倒的な影響を与えてきた。文芸においても、古代ギリシアにおいて書かれた諸作品は、近代に至るまで古典的規範として読まれ続け、時代時代の精神を吹き込まれながら、さまざまな分野の芸術家たちにインスピレーションを与え続けてきたのである。この講義では、古代ギリシアの文芸作品のなかから、その代表的傑作ともいえるべき、ソポクレスの悲劇『オイディプス王』とプラトンの対話篇『饗宴』の二つの作品を取り上げ、解説と鑑賞をおこなう。						
到達目標	【前半】担当者：浦部 依子 中国文学における、古典戯曲文学の位置と概要を領略して、重要な作家とその作品に親しみ、3年次以降の学びの基礎を築くことができる。 【後半】担当者：木下 昌巳 世界の古典的な作品の紹介・解説を受けて、テキストを自分なりに読み解き、鑑賞することができるようになる。						
授業計画	【前半】担当者：浦部 依子 * 戯曲は変更することがある 第1回 中国文学の特質と古典戯曲文学の位置 1) 匈奴へ嫁した宮女 王昭君 「昭君出塞（しょうくんしゅっさい）」 2) メイドがとりもつお嬢様の恋 崔鶯鶯 「西廂記（せいしょうき）」 第3回 3) 糠（ぬか）をたべる嫁 趙五娘 「琵琶記（びわき）」 第4回 4) 生き返ったお嬢様 杜麗娘 「牡丹亭（ぼたんてい）」 第5回 5) 名妓が拾ったまことの恋 王美娘 「占花魁（おいらんをひとり占め）」 第6回 6) 歴史は動き愛は終わった 楊貴妃 「長生殿（ちょうせいでん）」 第7回 講義のまとめ・女性主体意識討論と文学の表現（グループ発表） 【後半】担当者：木下昌巳 第8回 ギリシアの文芸概観 第9回 ギリシア悲劇の概観 第10回 ソポクレス『オイディプス王』の上演を鑑賞する（1） 第11回 ソポクレス『オイディプス王』の上演を鑑賞する（2） 第12回 ギリシア悲劇と現代思想—オイディプス・コンプレックスについて 第13回 ギリシアの文芸とギリシア哲学 第14回 プラトン『饗宴』を読む（1） 人はなぜ恋をするのか？ 第15回 プラトン『饗宴』を読む（2） 「プラトニック・ラブ」とは何か？						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【前半】担当者：浦部 依子 授業前準備学習： ① 各回の講義前に、コースパックを熟読しておく。（学習時間：90分） ② 取り上げる戯曲について、訳書・参考文献・ネット・動画などで予め調べ、効果的な研究につなげる。（学習時間：90分） 授業後学習： 戯曲に表現されたものとヒロインの主体意識について考察する（学習時間60分） 【後半】担当者：木下 昌巳 配布資料「世界の文芸Ⅱ」を授業前に熟読しておくこと						

授業方法	【前半】担当者：浦部 依子 文学講義（映像資料によるレビューと討論を含む）と文学の表現（グループによる名場面の寸劇発表） 【後半】担当者：木下 昌巳 講義と悲劇上演の鑑賞（DVDによる）
評価基準と評価方法	【前半】担当者：浦部 依子 レポート 70%（これに加えて小テストを実施することがある） 平常点 30%（討論・発言・フニミニツペーパー・文学の表現） フニミニツペーパーなどに対するフィードバックの方法：原則的に翌週時に対応する。 【後半】担当者：木下 昌巳 レポート70%、平常点30%。
履修上の注意	【前半】浦部 依子 ・出席を重視する。・前半後半の2つの授業回数15回中、原則として3分の1以上の欠席者は受講・受験不可。 <重要：レポート提出に関する注意> ①・講義で扱った戯曲1つ又は複数について、任意のテーマで述べる。或いは、戯曲に関する自由なトピックも可。 ・A4横書き 片面で1～2ページ前後にまとめ、なるべく両面印刷の上、授業中に指示した指定日に教務へ提出する。 ・フォントは自由。長編レポートはフォントを小さくする。 ・講義名、タイトル、学籍番号、氏名を明記すること。 ② あらすじは書かないこと。自分の所見や分析を中心に書くこと。ネット上の他者の文転用は、剽窃となる事があり充分注意する。自分の文と他者の文（引用文）を明確に区別し、引用範囲が一見してわかるようにする。引用には出典を書く。 ③ 提出者間で全く酷似したレポートは、いずれもを減点することがある。 ※ 質問は、授業の前後で受け付けます。 【後半】木下 昌巳 質問は授業の後で受け付けます。 レポートの書き方は授業内で説明します。
教科書	【前半】浦部 依子 ・コースバックを使用する 【後半】木下 昌巳 ・コースバックを使用する
参考書	【前半】浦部 依子 ・中国文学全般の参考文献（抜粋）： 倉石武四郎『中国文学講話』東京：岩波書店1974 ISBN-10: 4469230154 吉川幸次郎『中国文学入門』東京：弘文堂1976 ISBN-10: 406158023X 岩城秀夫『中国文学概論』京都：朋友書店1996 ISBN-10: 4892810479 興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』京都：世界思想社1991 ISBN-10: 479070386X 浦部依子「花の中国文学漫歩」（月刊『東方』連載）東京：東方書店1998年3月～99年2月（205号～216号）ISSN:0910-8904 大木康『中国明清時代の文学』東京：放送大学教育振興会2001 ISBN-10: 4595670303 （中国語）章培恒・駱玉明主編『中国文学史 新著』（全三冊）上海：復旦大学出版社2007 ISBN: 9787309054620 ・戯曲の日本語訳書（抜粋）： 王昭君（おうしょうくん） 1『還魂記・漢宮秋』宮原民平訳 国訳漢文大成文学部第10巻//b 東京：国民文庫刊行會，1921.7 西廂記（せいしょうき） 1『西廂記・琵琶記』宮原民平訳註 国訳漢文大成文学部第9巻//a 東京：国民文庫刊行會，1923 2『西廂記』王奕甫著、鹽谷節山訳 東京：昌平堂，1948 3『新訳西廂記』岸春風楼訳 東京：文教社，1916（大正5年） 4『西廂記』岡島獻太郎訳 東京：團々社書店（発売），1894 琵琶記（びわき） 1『西廂記・琵琶記』宮原民平訳註 国訳漢文大成 文学部第9巻//a 東京：国民文庫刊行會，1923 2『國譯琵琶記』鹽谷温訳註 国訳漢文大成 文学部第35冊（第9巻の3） 東京：国民文庫刊行會，1923 3『中国古典文学全集』戯曲集 第33巻 東京：平凡社，1959 牡丹亭（ぼたんてい） 1『還魂記・漢宮秋』宮原民平訳 国訳漢文大成文学部第10巻//b 東京：国民文庫刊行會，1921.7 2『還魂記』岩城秀夫訳（中国古典文学大系・戯曲集・下）東京：平凡社，1971/1994 占花魁（おいらんを独り占め） 1「売油郎独占花魁」『今古奇観・上』中国古典文学大系37千田九一他訳 東京：平凡社，1970/1994 長生殿（ちょうせいでん） 1『長生殿』塩谷温訳（『国訳漢文大成 文学部17』所収 国民文庫刊行會1923） 2『長生殿—玄宗・楊貴妃の恋愛譚』洪昇著、岩城秀夫訳 東京：東洋文庫2004 【後半】木下昌巳 ソボクレス 著 藤澤令夫訳 『オイディプス王』（岩波文庫） プラトン著 森進一訳『饗宴』（新潮文庫）

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	セリフ表現と演技法／文芸との触れ合いⅡA						
担当教員	岩崎 正裕					科目ナンバ－	A22030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	戯曲を読み込み、台詞を身体化する。						
授業の概要	戯曲の読解から、次第に演劇を立ち上げる。						
到達目標	演技における働きかけと、他者の受容からコミュニケーション成立への手がかりを模索する。						
授業計画	1. 言葉と身体について 2. 近代戯曲「かもめ」概論 3. かもめ一幕前半の音読と読解 4. かもめ一幕後半の音読と読解 5. かもめ二幕前半の音読と読解 6. かもめ二幕後半の音読と読解 7. かもめ三幕前半の音読と読解 8. かもめ三幕後半の音読と読解 9. かもめ四幕前半の音読と読解 10. かもめ四幕後半の音読と読解 11. 演技空間の認識 12. 目的ある行為と台詞 13. 場面を作る1 14. 場面を作る2 15. 振り返りと展望						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	台本から離れて、台詞を言える準備が必要な場合がある。						
授業方法	主に座学形式で進行するが、立つ座る動くなどの行為が要求される。各回授業で行う場면을予習のために読み込み、登場人物の背景や関係を把握しておく。各回授業終了後は再度戯曲を点検し、登場人物の行動の要因を整理する。						
評価基準と評価方法	読解と演技的な工夫を評価する。演技において正解というものはないので積極性が問われる。グループワークにおいて場面作りのディスカッションが行われる。相互の理解から、納得解が生まれることを体験的に学習する。						
履修上の注意	立つ座る動くなどの行為が容易に出来る服装での参加が望ましい。						
教科書	「かもめ・ワーニャ伯父さん」チェーホフ 神西清[訳] 新潮文庫						
参考書	特になし						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ	A04070
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	文芸作品の分析と研究						
授業の概要	各自の関心に応じて、文芸作品（メディア、サブカルチャー、文学、映画、演劇など）を取り上げ、自分の考えを論理的な文章にまとめる練習を行う。						
到達目標	文芸作品を自らの力で解釈することができる。 先行研究を踏まえながら、作品を独自の視点から分析することができる。						
授業計画	1. 授業計画の説明、卒論の書き方の指導 2. 先行研究の探し方、発表の順番の決定 3. 「はじめに」とテーマの説明 (1) 5. 同 (2) 6. 同 (3) 7. 同 (4) 8. 「第1章 具体例の紹介」の発表 (1) 9. 同 (2) 10. 同 (3) 11. 同 (4) 12. 「第2章 定説と先行研究の紹介」 (1) 13. 同 (2) 14. 同 (3) 15. 前期のまとめ 夏休みの課題： テーマに関連した文献を読む。 16. 夏休みの課題報告 (1) 17. 同 (2) 18. 「第3章 定説に対する反論」の発表発表 (1) 19. 同 (2) 20. 同 (3) 21. 同 (4) 22. 「第4章 本論の発表」 (1) 21. 同 (2) 22. 同 (3) 23. 同 (4) 24. 「第5章 結論」の発表 (1) 25. 同 (2) 26. 同 (3) 27. 同 (4) 28. レジメの指導 29. 口頭試問 1 30. 口頭試問 2						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	テーマに関連した作品と批評、研究論文を読む。（30時間以上）						
授業方法	演習：以下の手順で進められる。 担当者の発表→教員による質問→受講生との質疑応答						
評価基準と評価方法	発表（25％）、平常点（25％）、卒業論文の内容（50％） 質問、内容評価は授業の前後、オフィスアワーで受け付ける。						
履修上の注意	資料の収集、先行文献の研究など、資料調査怠らないこと。						

教科書	なし
参考書	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A04070
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文の作成						
授業の概要	現代メディア文化をテーマとする卒業研究および卒業論文の作成にむけた指導をします。						
到達目標	(1) 自分で問いを立て、調べ、考察し、卒業論文を書き上げることができる。【知識・理解】【汎用的技術】 (2) 研究の仕方を学ぶことができる。【態度・志向性】						
授業計画	前期 1 インTRODakション 2 卒論の書き方①： 卒論とは？ 3 卒論の書き方②： 資料収集の方法 4 卒論の書き方③： アウトラインの作成 5 卒論の書き方④： パラグラフを書く 6 卒論の書き方⑤： 文章の形式を守る 7 卒論の書き方⑥： 文章を推敲する 8 論文講読① 9 論文講読② 10 卒論テーマ・アウトラインの発表① 11 卒論テーマ・アウトラインの発表② 12 卒論テーマ・アウトラインの発表③ 13 卒論テーマ・アウトラインの発表④ 14 卒論テーマ・アウトラインの発表⑤ 15 夏休み期間に向けた全体指導 後期 16～20 研究状況の報告 21～28 個別指導による論文作成 29～30 提出に向けた最終確認 ・なお、授業の進展にあわせて内容を変更する可能性があります。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： 発表を担当するときは、文献探索、資料収集、文献精読を踏まえたうえで、発表レジュメを作成する。（学習時間：2時間） 授業後学習： 発表後のディスカッションの内容を整理し、卒業論文に反映させる。（学習時間：1時間） また、授業前後を通して卒業論文の執筆に取り組む。						
授業方法	演習： 卒業論文の内容発表およびディスカッションを行う。また、個別指導による指導を実施する。 講義： 卒業論文の作成方法に関する解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	卒業論文 80%： 卒業論文で扱った内容を理解しているか、および、形式を守って論文が書けているか、を評価する。また、卒業論文を通して興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。 授業態度 20%： 発表の準備度合いおよびディスカッションへの参加度を評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。						
履修上の注意	教員への進捗状況の報告、相談などコミュニケーションを欠かさないこと。 自分が発表する日に無断欠席をすることは厳禁。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	授業中に指示します。						
参考書	授業中に指示します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	枡井 智英					科目ナンバー	A04070
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究・論文作成の指導						
授業の概要	演劇や映画を中心に個々人が関心のあるテーマを選んで問いを立て、それに関する資料収集、分析・検証、そして卒業論文の作成指導を行う。						
到達目標	卒業研究のテーマを決定して必要な情報を収集し、ディスカッションや発表を通して理解を深め、卒業論文をまとめ上げる。						
授業計画	前期 1. 卒業論文作成の進め方 2. 卒業論文の書き方・作成の仕方① 3. 卒業論文の書き方・作成の仕方② 4～6. 卒業論文に関する個人発表：文献の要約 7. 批評の方法論① ジェンダー論 8. 批評の方法論② 間テクスト性 9～14. 卒業論文に関する個人発表：主要テキストや上演作品の選定 15. 問題の絞り込みと夏休み期間の研究計画 後期 16. 夏休み期間の研究状況の報告 17～22. 卒業論文の中間発表 23～25. 個別指導による研究の展開と執筆 26. 初稿の提出 27～28. 提出前の点検 29～30. 提出論文の講評と再提出指導						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	前期の授業では卒業論文の書き方や論文作成に有効となる批評理論の文献や資料を事前にしっかり予習しておくこと（最低1時間半はかけましょう）。また、卒論のテーマを決定するために必要な資料収集や参考文献の購読などは、できうる限り固まった時間（1日2時間以上）を週に3日程度とって取り組んでください。資料収集だけでもかなり時間がかかります。夏休み以降の卒論作成においても、週3日くらいは固まった時間（1日2時間）をしっかりと作り作成に当たってください。						
授業方法	演習形式及び個別指導。演習では文献の要旨発表から卒業論文の発表などを行い、個別指導で論文作成の細かな指導を行う。						
評価基準と評価方法	卒業論文80%、取り組み姿勢20%						
履修上の注意	できる限りの時間を卒業論文に充て、粘り強く取り組む姿勢が必要である。						
教科書							
参考書	各自のテーマに応じて決定していく。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	東西芸術と文化／文芸講読ⅠB						
担当教員	打田 素之					科目ナンバー	A12020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸批評を通して、絵画と音楽の鑑賞法を学ぶ。						
授業の概要	江戸時代の絵画と18・19世紀ヨーロッパの音楽を論じた小林秀雄の文芸評論を精読する。						
到達目標	ゲーテとモーツァルトの関係について説明できる。 狩野派について説明できる。 山水画について説明できる。						
授業計画	1. 導入と授業計画、発表者の決定 2. 評論「モーツァルト」 (1) ゲーテとモーツァルト 3. (2) ゲーテとベートーベン 4. (3) 「ファウスト」 5. 評論「鉄斎」 (1) プロフィール 6. (2) 南画・文人画 7. (3) 風景画家としての鉄斎 8. 評論「光悦と宗達」 (1) 光悦のプロフィール 9. (2) 琳派と歌巻 10. (3) 古今和歌集と新古今和歌集 11. (4) 宗達のプロフィール 12. (5) 桃山期の美術と狩野派 13. 評論「雪舟」 (1) プロフィール 14. (2) 「山水長巻」 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	美術展に通うこと。クラシック音楽を聴くこと。（15時間） TVの美術関連番組、音楽関連番組（「日曜美術館」「ららら、クラシック」など）を見ること。（15時間）						
授業方法	講義 画家や文学者、音楽家の経歴を紹介しながら、テキストを読んで行く。 理解度と知識を問う質問を行い、疑応答形式で授業を進める。						
評価基準と評価方法	平常点56％、テスト44％ ・平常点は授業中の質疑応答の内容（正確さ、独自性など）に応じて評価する。 ・筆記試験は、授業内容の理解度を問う問題を出題する。 ・講義内容や評価に関する質問は、授業の前後、及びオフィスアワーで受け付ける。						
履修上の注意	欠席5回で失格とする。						
教科書	小林秀雄『モーツァルト・無常ということ』、新潮文庫、ISBN978-4-10-100704-5 旧版は注がついていないので、2006年以降発行の改版を購入すること（古本で購入する場合は注意）。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	東西芸術の文化史／比較文化ⅠB							
担当教員	上久保 真理					科目ナンバー	A32020	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	異質な文化が合うとき。							
授業の概要	「芸術」という概念はキリスト教西欧で育まれ、西欧主導で発展したと言える。「西」から見て異質なものは「東」と呼ばれ、その異質なものが合うとき、新たな文化的展開の可能性が生まれる。「西」はどのようにオリент、東方、東洋と対峙し、日本のわたしたちはどのように西洋を受け止め、向き合ってきたのかを、幾つかの歴史的場面を取り上げ、検証する。							
到達目標	わたしたちのものの見方が自分たちが生まれ育った文化・伝統によって裏打ちされていること、異なる文化・伝統との出会いがわたしたちのものの見方を変化させてきたこと、そしてそのような出会いが今後の新たな文化的展開へつながりうることに気づくことができる。							
授業計画	第1回 新しいものが生まれる時 第2回 ギリシャとオリент 第3回 ギリシャ的世界観とローマ的世界観 第4回 キリスト教世界における東方と西方 第5回 異教徒たち 第6回 まだ見ぬ東方世界へ 第7回 日本と南蛮 第8回 旅・景色・庭園―ピクチャレスク― 第9回 ロマン主義―エキゾチックなものへ― 第10回 他者と出会う 第11回 ジャポニズムと印象主義 第12回 プリミティヴィズム―間文化的な問い― 第13回 西洋美術を纏う―東洋のわたし― 第14回 映画の中の異文化 第15回 日本から海外へ							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業計画の各回のテーマについて、各自が前もってインターネットで検索、図書室で調べてみるなどして予習を行うこと（学習時間1.5時間）。 授業後学習：授業で取り上げた箇所の時代背景や、授業で興味を持った作品・作家について、各自がさらに掘り下げて調べてみる（学習時間1.5時間）。 授業中に告知する展覧会などへ積極的に足を運び、生の作品に触れること。							
授業方法	講義形式。 スライド、DVDなどの使用。 個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションもあり。							
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合による。							
履修上の注意	私語、携帯やメールの使用、授業中の出入りは慎むこと。教室では固定席（学生番号順）とする。 希望があれば費用各自負担・自由参加で学外見学することもあり。 授業の進行状況等により、毎回の授業計画に多少の変更の可能性もあり。 ※質問は授業の前後で受け付けます。							
教科書	適宜プリントを配布する。							
参考書	授業中に随時紹介する。							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	トピックの文化史／比較文化ⅡⅡA						
担当教員	植 朗子					科目ナンバー	A32040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファンタジー作品における不思議なモチーフー動物・植物の比較文化論						
授業の概要	ファンタジー作品や、昔話における、「不思議」をテーマにします。『ハリーポッター』などの児童文学、『ラプンツェル』などのメルヒェンをはじめ、物語には奇妙な「植物」や「動物」が魔法のアイテムとして登場します。実在の動植物が、なぜ「怖いもの」「不思議なもの」として描かれているのか。伝説や神話、それをもとにした映画や絵本を見ながら、理解を深めていきます。						
到達目標	映画や文芸作品を見ることからはじめ、様々な「不思議なモチーフ」への理解を通じて、作品を分析することができるようになることを目標とします。 それぞれの作品の背景にある文化を比較し、理解することができます。						
授業計画	第1回 主旨説明 第2回 不思議な「植物」と植物民俗学 第3回 映画における不思議な「植物」（『ラプンツェル』） 第4回 メルヒェンにおける不思議な植物 第5回 架空の植物 第6回 映画における不思議な「動物」 第7回 ふつうの「動物」の不思議な力（『Hachi』） 第8回 メルヒェンと絵本の中の不思議な動物（「金のがちょう」） 第9回 伝説の中の奇妙な動物（ねずみ、へび、猫、牛） 第10回 架空の動物 第11回 ファンタジーの世界の動植物（『ハリーポッター2』） 第12回 ファンタジーの世界の動植物（『ムーミン』） 第13回 善と悪のイメージ、「恐ろしさ」の文化史 第14回 まとめ 第15回 レポート提出と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	配布した資料をよく読み、疑問点は講義の中で質問して下さい。 授業では、毎回参考文献を資料として配布します。授業後には資料を読み返し、授業のレジュメと関係する部分を各自ノートにまとめて下さい（30-60分程度）。また、授業で紹介した映像資料や、小説、漫画などの作品についても、見るようにして下さい。映画、DVD鑑賞、テレビで放映されている関連視聴覚資料も紹介しますので、見るように心がけて下さい。（週2時間程度）						
授業方法	講義。視聴覚教材を見たあとに、各自の感想と意見交換を行います。疑問点や、自分の感想を積極的に伝えようとする姿勢を見せて下さい。受講生みなさんのそれぞれの視点をいかした参考文献などをフィードバックとして紹介します。コメントカードも使用しますので、発言ができなかった場合は、コメントカードも利用して下さい。（メールでの質問も受け付けます）						
評価基準と評価方法	レポート70％ 平常点30％						
履修上の注意	授業中は授業に関係のない物を机の上に置かないように注意して下さい。遅刻は2回で欠席扱いとなります。理由のある遅刻、欠席は、差し障りにない範囲で申し出て下さい。						
教科書							
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	日本の近現代演劇／文芸講読ⅥA						
担当教員	栢井 智英					科目ナンバー	A12070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	上演に結びつけて戯曲を読む力をつける。						
授業の概要	日本の代表的劇作家井上ひさしの『天保十二年のシェイクスピア』を読む。場面ごとに戯曲を分析し、劇上演でどのように表現されているかについて二つの映像記録、井上ひでのり演出作品（2002年）と蜷川幸雄演出作品（2005年）を参考に検証していく。また二つの作品の舞台演出にみられる俳優の演技や舞台美術などを比較してそれぞれの作品の特徴を分析し、それぞれの作品のテーマの扱いの違いについても考えてみる。						
到達目標	舞台上演を前提とした戯曲の特徴についての理解を深め、上演分析をするための基礎的能力を養う。『天保十二年のシェイクスピア』の内容をしっかりと理解し、またシェイクスピアの有名な戯曲に関しての知識も増やし、更には戯曲と小説の違いをしっかりと自分の言葉で語ることができるようになる。						
授業計画	1. 作品の背景とその内容 2. 戯曲にある約束事 3. 第1幕1～2とその上演 4. 第1幕3～4とその上演 5. 第1幕5～7とその上演 6. 第1幕8～11とその上演 7. 第1幕12～13とその上演 8. 第2幕14～15とその上演 9. 第2幕16～17とその上演 10. 第2幕18～19とその上演 11. 第2幕20～21 12. まとめ①象徴としての人物 13. まとめ②劇におけるサスペンス 14. まとめ③言葉をアクションに 15. まとめ④テーマと批評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	テキストの予習。難しい感じが多いので予習には時間をかけてください。予習として戯曲の精読に1時間以上はかけましょう。また、その時々に出される課題もきっちりこなしてください。評価の対象となります。						
授業方法	講義を中心に、ビデオを鑑賞しディスカッションも行う。						
評価基準と評価方法	授業におけるディスカッションへの参加度（50％）期末のレポート（50％）						
履修上の注意	正当な理由がないと遅刻は認めません。						
教科書	適宜プリントを配布。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	日本文芸と映画／文芸講読ⅡⅡB						
担当教員	石塚 洋史					科目ナンバー	A12040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	原作のある日本の映画作品の鑑賞と、作品の分析、原作との比較を通して、映画と文芸の表現の違いについて考察します。						
授業の概要	本講義では原作のある日本の映画作品を鑑賞し、作品の分析、原作との比較を行います。文芸作品が映画化された際、その文芸作品の内容が全て映像となるわけではなく、またその文芸作品にない要素が映画作品の中に加えられることもあります。そしてそれ以上に重要なのは、語り方そのものの変化です。文芸作品の語り口に、映画作品が及ばないことは少なくありません。しかし時には映画作品は文芸作品とは別次元の表現によって、観客の心を捉えます。本講義では映画ならではの表現を理解することに重点を置きます。						
到達目標	(1) 映画作品の構成を理解することができます【知識・理解】。 (2) 映画作品の細部について、その意味や効果を理解することができます【知識・理解】。 (3) 映画作品とその原作を比較し、両者の表現の違いを理解できます【知識・理解】。 (4) 映画と文芸に関する視野を拡大し、興味を深めることができます【態度・志向性】。						
授業計画	第1回 視点と話法1 映画の技法 第2回 視点と話法2 映画の構成 第3回 視点と話法3 原作との比較 第4回 社会の描き方1-1 映画の技法 第5回 社会の描き方1-2 映画の構成 第6回 社会の描き方1-3 原作との比較 第7回 台詞1 映画の技法 第8回 台詞2 映画の構成 第9回 台詞3 原作との比較 第10回 社会の描き方2-1 映画の技法 第11回 社会の描き方2-2 映画の構成 第12回 社会の描き方2-3 原作との比較 第13回 家族の描き方1 映画の技法 第14回 家族の描き方2 映画の構成 第15回 家族の描き方3 原作との比較						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習 授業計画の「映画の技法」の回の授業前：「視点と話法」、「社会の描き方」、「台詞」、「家族の描き方」それぞれのテーマに関して、過去に鑑賞した映画の中で印象に残っている表現について自分なりに考えて下さい（学習時間：90分）。 授業計画の「映画の構成」の回の授業前：前回の授業内に鑑賞した映画について、今後の構成を予測して下さい（学習時間：90分）。 授業計画の「原作との比較」の回の授業前：できる限り原作を読み、映画との比較を自分なりに行ってください（学習時間：90分）。 授業後学習 授業計画の「映画の技法」、「映画の構成」の回の授業後：授業内に鑑賞した映画に関して、自分なりの疑問点、注目点をまとめて下さい（学習時間：90分）。 授業計画の「原作との比較」の授業後：授業内に鑑賞した映画と原作とを比較し、その表現の違いについてまとめて下さい（学習時間：90分）。						
授業方法	講義：テーマに関する映画作品を鑑賞し、担当教員が解説します。第3回、第6回、第9回、第12回、第15回にはレポートを提出していただきます。						
評価基準と評価方法	授業内に提出するレポート50%、期末レポート50% 授業内に提出するレポート：授業で取り上げられた作品について、自分の考え、気になったこと、疑問点などが記述されているかを評価します。到達目標（1）、（2）、（3）、（4）に関する到達度の確認。 期末レポート：授業で取り上げられた作品の表現について、自分の考えが記述されているかを評価します。到達目標（1）、（2）、（3）、（4）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 授業内に提出するレポート：次回の授業で紹介し、疑問点についてはできる限り答えます。ただし第15回に提出されたレポートについては、松蔭manabaで紹介し、疑問点についてはできる限り答えます。 期末レポート：レポートの解説を松蔭manabaで告知します。						
履修上の注意	授業内に提出するレポートと期末レポートを重視します。授業内に提出するレポートには、疑問点を書いて下さっても構いません。授業内に提出するレポートについては、受講者に紹介することによって授業が充実すると担当教員が判断したものについては、匿名で紹介し、疑問点についてはできる限りお答えします。ただし匿名であっても記述者が紹介してほしい場合は紹介しませんので、その旨を記述して下さい。						
教科書	なし。						

参考書	授業内に適宜紹介します。
-----	--------------

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	美術の基礎							
担当教員	上久保 真理					科目ナンバー	A71020	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	美術の歴史や制作の基礎的な考え方に触れる。							
授業の概要	美術とはどんなもの？何のためのもの？改めて問われると、わたしたちは意外に美術について知らないことに気づく。この授業では、美術の歴史や制作の基礎的な考え方に触れ、各自の美術観を養うことを目指す。							
到達目標	美術制作の基礎的な作業を通じて、美術の歴史やその社会的・思想的背景に思いをいたすことができる。							
授業計画	第1回 導入（授業ガイダンス）、輪郭を取る 第2回 キマイラ1 -架空の生き物を考える- 第3回 キマイラ2 -触覚を意識する- 第4回 キマイラ3 -イメージを固める- 第5回 キマイラ4 -息を吹き込む- 第6回 デッサン -目と手を結ぶ- 第7回 イラストレイト -ことばから絵へ- 第8回 ルールをつくる -世界観の構築- 第9回 錯視をつくる 第10回 ドローイング -イメージを広げる- 第11回 アニメーション1 -動きを分解する- 第12回 アニメーション2 -再構築する- 第13回 アニメーション3 -息を吹き込む- 第14回 痕跡を残す -写真の始まり- 第15回 まとめと展望 -作品を企画する-							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業計画の各回のテーマについて、各自が前もってインターネットで検索、図書室で調べてみるなどしてイメージを広げておくこと（学習時間1.5時間）。 授業後学習：授業で取り上げたテーマや、授業で興味を持った技法について、各自がさらに掘り下げて調べてみる。こと。（学習時間1.5時間）。また、その技法を自分で展開して作品を作ってみること。 ギャラリーや美術館に積極的に足を運ぶ好奇心を持ち、生の作品に触れる意欲を持つこと。							
授業方法	講義と演習を織り交ぜ、制作作業も取り入れて授業を進める。 スライド、DVDなどの使用。希望により学外演習なども含む。 個人もしくはグループ単位での制作・発表や、コンピュータ室での作業もあり。							
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、提出物や発表40%、期末レポート30%の総合による。							
履修上の注意	私語、携帯やメールの私的使用（授業内で使用する場合はある）、授業中の出入りは慎むこと。 希望があれば費用各自負担・自由参加で学外見学することも可能。 授業の進行状況等により、毎回の授業計画に多少の変更の可能性もある。 ※質問などは授業の前後で受け付けます。							
教科書	適宜プリントを配布する。							
参考書	授業中に随時紹介する。							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	ファンタジーの世界							
担当教員	釣 馨					科目ナンバ－	A72090	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファンタジーの起源と構造、および現代のジャンルとの関わりについて							
授業の概要	ファンタジーは、神話や伝承から得た着想をテーマに掲げ、魔法などの空想的な要素が一貫性のある設定として導入されている。一方でファンタジーは架空の世界にもかかわらず、その世界には作品が書かれた地域やその時代の文化や思想が背景にある。それらを3大ファンタジー（『指輪物語』『ナルニア国物語』『ゲド戦記』）と現代の新しいファンタジーの中に読み取りつつ、比較、整理する。							
到達目標	ファンタジーの起源や構造、またそれらが時代を反映しながらどのように変化してきたのかを理解できる。またファンタジーが映画やアニメのような新しいジャンルにどのように浸透し、活用されているかを理解できる。最終授業の筆記試験でファンタジーに対する自分なりの理解と考えをまとめることができる。							
授業計画	第1回 ファンタジーとは何か 定義・歴史・構造 第2回 『指輪物語』(1) 映画版の鑑賞 作品の概要 第3回 『指輪物語』(2) 物語の構成と素材について 第4回 『ナルニア国物語』 第5回 『ゲド戦記』(1) 映画版の鑑賞 作品の概要 第6回 『ゲド戦記』(2) 物語の構成と映画版との違い 第7回 「ハリー・ポッター」シリーズ(1) 「秘密の部屋」の鑑賞と作品全体の概要 第8回 「ハリー・ポッター」シリーズ(2) 作品が反映する現代社会の問題 第9回 「ハリー・ポッター」シリーズ(3) ウォルデモートに見られる悪と血統の問題 第10回 「ハリー・ポッター」シリーズ(4) 他のファンタジー作品との比較 第11回 『千と千尋の神隠し』(1) 作品の鑑賞 物語の概要 第12回 『千と千尋の神隠し』(2) 日本のファンタジーとしての特徴 第13回 『千と千尋の神隠し』(3) ファンタジーとイニシエーション 第14回 ディズニーとファンタジー 第15回 まとめと筆記試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で映画になったファンタジー作品を部分的に鑑賞するが、全体を通して見る時間がないので、授業の前に各自で作品を見ておくこと（学習時間2時間）。また毎回授業のまとめと意見を書くプリントに、自分で見たり読んだりした作品の小レポートを書く欄を設けるので、自分で興味を持った作品を選び、書き込んでおくこと（学習時間2時間）。							
授業方法	講義と演習。ひとつの作品につきテーマを決めてグループでディスカッションしてもらい、その内容をまとめ、簡単なプレゼンテーションをしてもらいます。							
評価基準と評価方法	平常点50点（毎回の授業の最後に専用の用紙に簡単なまとめと感想を書いてもらい、評価します）と筆記試験50点。							
履修上の注意	出席を重視します。							
教科書	教科書は使用せず、随時プリントを配布します。							
参考書	小谷真理『ファンタジーの冒険』、脇明子『魔法ファンタジーの世界』、アーシュラ・K・ル＝グウィン『夜の言葉 ファンタジー・SF論』							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	フォトグラフィー・シネマトグラフィー／文芸との触れ合いⅡIB						
担当教員	徳永 隆之					科目ナンバー	A22060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術としての写真						
授業の概要	写真を使った作品制作に取り組み、制作者の視点から美術作品を考察します。最初にピンホールカメラを製作及び撮影をおこない写真の原理について学びます。その後、デジタルカメラを使用し撮影に関する基本的な技術を習得します。また、大型カメラでの撮影も体験し写真術に対する理解を深めます。実習と平行して写真作家の作品集鑑賞をおこない、作品に込められたメッセージを読み取ることを試みます。						
到達目標	1. カメラの原理および基本的な操作方法を理解できる 2. 美術作品を理解するヒントを得ることができる						
授業計画	第1回 授業ガイダンス 第2回 ピンホールカメラ製作 第3回 撮影実習①（ピンホールカメラにて撮影をおこなう） 第4回 撮影の基礎知識を学ぶ 第5回 撮影実習②（被写界深度について学ぶ） 第6回 撮影実習③（シャッタースピードの効果について学ぶ） 第7回 画像調整ソフトの使用説明 第8回 blogの作成及びweb上への画像掲載 第9回 大型カメラの使用説明 第10回 撮影実習④（大型カメラ/ビュータイプを使用して撮影をおこなう） 第11回 撮影実習⑤（大型カメラ/フィールドタイプを使用して撮影をおこなう） 第12回 撮影実習⑥（デジタル一眼レフを使用して撮影をおこなう） 第13回 作品集鑑賞①（興味がある作家を探す） 第14回 作品集鑑賞②（レポート作成に必用な資料を探す） 第15回 画像編集及びレポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各自で被写体を探し撮影をおこない授業で学んだ技術を復習します。制作活動を通して作家の気持ちに触れることもできますので、可能な限り普段からカメラを持ち歩くよう心掛けてください。二週間に一度、写真をblogで発表します。その作業、撮影も合わせ週に4時間程度は制作時間に充ててください。						
授業方法	実習及び演習となります。大型カメラは特殊なカメラであり一人で撮影をおこなうことは困難です。その為、3～5人程度のグループに分かれ、各々の得意分野を活かした実習をおこないます。						
評価基準と評価方法	「課題20%レポート20%平常点60%（実習への参加度）」 この授業は実習が過半数を占めます。出席できなければ課題をおこなうことができず評価が下がることへ繋がりますので欠席しないよう心掛けて下さい。 平常点：実習への参加度を含め、機材の操作方法への理解度について評価します。 課題：「作品とは何か」について考え制作されているか等の評価する。 レポート：写真集は見るものでなく読むものであると考えられます。見るだけに終始していないことを評価します。						
履修上の注意	1. 履修の対象者 写真に興味がある人を対象とします。特に美術に関心があることが望ましい。 2. 履修上の注意 12回以上の出席がなければ単位の修得資格を失います。						
教科書	必用な際にプリントを配布します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文学の基礎						
担当教員	東野 泰子・武田 悠希					科目ナンバー	A71030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	【前半】 日本の古典文学を現代的な視点から読むことを通して、文学を読むための着眼点にどのようなものがあるかを考える。 【後半（8回目以降）】 後半は、江戸時代から現代にかけての日本文学の流れを概観する。						
授業の概要	【前半】現代において、新たに生み出されるさまざまな日本の文化・文芸には、古典文学を発想の源としているものが少なくない。日本の古典文学の主要作品の幾つかを読み解くことによって、現代の文芸に影響を与え続けている古典文学の特性について考える。さらに、文学作品を漫然と読むのではなく、話形・話者といった観点から分析することを試みる。 【後半（8回目以降）】近世以降の日本文学史を概観することで、日本の文化・文芸を理解するために必要となる基礎的な知識や視点の習得を目的とする。文学史だけでなく、背景となった歴史や異文化の受容なども学ぶ。						
到達目標	【前半】日本の主要な古典文学作品について、基礎的な事項を説明することができる。【知識・理解】 古典文学作品が現代の日本文化にどのような影響を与えているか、考えを述べることができる。【知識・理解】 【後半（8回目以降）】 近世以降の日本の文学を読み解するために必要な知識や視点を知り、興味・関心をより具体的なものとして意識することができる。 近世以降の文学史の背景と流れを授業で紹介する視点に添って説明することができる。						
授業計画	【前半】東野 泰子担当 第1回：物語を読み解く視点について 昔話の源流 1－浦島太郎 第2回：昔話の源流 2－かぐや姫 第3回：貴種流離譚 1－ヤマトタケル 第4回：貴種流離譚 2－在原業平 第5回：貴種流離譚 3－光源氏 第6回：物語の語り手 1－伊勢物語・土佐日記 第7回：物語の語り手 2－源氏物語・平家物語 【後半】武田 悠希担当 第8回 近世から近代にかけての日本文学への視点と導入 第9回 絵入小説の系譜～草双紙とは何か？～ 第10回 小説の日本語表現～句読法の歴史～ 第11回 子どものための読物と表現 第12回 雑誌の歴史 第13回 現代女性作家作品の諸テーマ 第14回 8回以降のまとめと筆記試験 第15回 メディアミックスを眺めるための視点・8回以降の総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【前半】 授業後学習として、授業内容や自分なりの疑問点を短文にまとめ、指示されたキーワードを辞書で調べる（学習時間30分程度）。 それらについて、毎時、授業のはじめに書いて提出してもらう。 【後半（8回目以降）】 近世から現代までの流れを概観するため、授業で取り上げる作品や事柄はおのずと限られてくる。 したがって、授業後学習として、毎回配布するレジュメと資料を見返し、授業中に紹介した作品や参考文献を参照し、授業内容に対する理解を深める必要がある（学習時間90分程度）。 第14回に予定している筆記試験にて、学習状況を確認する。						
授業方法	【前半】 おもに講義形式をとる。ほぼ毎時、前回授業のまとめ（リアクションペーパー）や小テスト等を課す。 最終授業時に前回までに課したレポートに基づく簡単なプレゼンテーションを代表者に行ってもらおう。 【後半（8回目以降）】 講義形式で行う。毎回、授業の最後に、授業内容のまとめと自分の意見をコメントシートに記述する課題を課す。 コメントシートに対する応答は、次回以降の授業冒頭に口頭で行う。 最終授業時に、これまでの授業で最も興味・関心を持ったテーマについて学生同士で意見交換をし、代表者に簡単なプレゼンテーションを行ってもらおう。						
評価基準と評価方法	【前半】平常点（出席状況、リアクションペーパーの提出、小テスト）60% 期末レポート40% 【後半（8回目以降）】日常的な授業に対する取組状況等の評価60%、筆記試験40%で評価する。						

履修上の注意	【前半】 2／3以上の出席回数に満たない者は、期末レポートの提出を認めない。 理由のない遅刻、早退、途中退出は出席に数えない。 携帯電話、スマートフォン、タブレット等の使用は不可。電子辞書は使用可。 毎回、何か書いて提出してもらい、それを平常点とするので、出席することが重要。 質問は授業終了後、教室等で受け付けます。 【後半（8回目以降）】 第13回に予定している試験には、授業で配布したプリントのみ持ち込み可とする。 ※授業時間外の連絡方法：授業終了後教室で対応する。
教科書	【前半】 教科書は指定しない。毎時、資料を配付する。 【後半（8回目以降）】 同様。
参考書	授業中に紹介する。

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸インターンシップ						
担当教員	打田 素之					科目ナンバー	A73120
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のキャリアに関連した10日間の就業体験を通して、専攻の分野がどのように活かされるか、また社会で働くことの意義を考える。						
授業の概要	①業務体験実習を通して、社会で働くことの意義とその働き方について考える。 ②業務体験実習を通して、職場の実態やビジネスルール、マナーを学ぶ。 ③社会人としての心構えを学び、体験を通して豊かな自己表現力を身につける。 ①～③について、主体的に学び、将来の就業に向けてチャレンジできるようにサポートする。						
到達目標	1. 文芸作品がビジネスの現場で、どのように流通しているかを説明できる。 2. 文芸作品が社会の中で、どのように取り扱われているかを説明できる。 3. 文芸の知識を就職現場で生かす方法を知ることができる。						
授業計画	【事前学習】（6月、7月） 1. ビジネス基礎講座 ・インターンシップについて ・グループワーク ・会社の仕組み、ビジスマナーなど 2. 実習先の企業調査など ・次週先の内容研究 ・実習先とのマッチング ・履歴書の書き方など 【夏休みの就業体験】 ・実習①～⑩（各企業における就業体験） （原則、実習は10日間、70時間以上） 【事後学習】（9月） ・実習の振り返り ・実習の体験発表 ・グループディスカッション ・実習報告書作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	文芸を取り扱っている現場（書店、劇場、Web、他）に絶えず触れ、個々の作品がどのように商品として流通しているかを知っておく（30時間以上）。また、その際、関係者の接客態度や現場で必要とされる知識を観察しておくこと。						
授業方法	事前学習は、企業研究とその結果発表をグループ単位で行う。 就業体験は、実際の現場で70時間の研修を受ける（体験労働を含む）。 事後学習は、就業体験をグループでまとめ、発表する。						
評価基準と評価方法	事前・事後レポート（プレゼンテーションを含む）＝40％ 実習先での評価＝60％ 疑問点、評価内容については、授業の前後、オフィスアワーで受け付ける。						
履修上の注意	①就業体験を「強く」希望する者のみの登録を認める。 ②原則として、遅刻・欠席は不可。特に、就業体験期間中は、遅刻欠席は認められない。 ③健康管理が、きちんとできる者のみの登録を認める。 ④研修先への交通費は、自己負担。 ⑤教員への連絡・報告・相談を怠らないこと。 （この科目は履修者制限科目です。4月以降の登録はできません。）						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	文芸第1演習Ⅱ							
担当教員	栢井 智英					科目ナンバー	A53020	
学期	通年／Full Year		曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	演劇研究の様々な要素、すなわち俳優、戯曲、演出、舞台美術などの上演での役割やその歴史などの基本知識を習得し、卒業研究に向けて各自のテーマを設定できる土台を作っていく。							
授業の概要	宝塚歌劇団についてその発展の歴史、上演スタイルの変遷、人気の秘密、演目の特徴、経営方法などについての検証と考察を行う。後期の途中からは各個人の関心のあるテーマについて発表を行う。							
到達目標	演劇や映像作品の分析。検証能力を高め、卒業研究に向けたテーマ設定ができるようになる。宝塚歌劇の歴史やその特徴について、しっかりと自分の言葉で語ることができるようになる。また舞台上演をある視点から考察し文章にすることができるようになる。							
授業計画	1. イントロダクション 2. 宝塚歌劇の歴史① 3. 宝塚歌劇の歴史② 4. レビューとミュージカルというジャンルについて。 5. 宝塚歌劇が輩出したスターたち 6. 宝塚歌劇と少女漫画の世界 7. 宝塚歌劇と劇団四季について 8. 観劇実習に向けて：作品と劇団についての紹介。 9. 観劇実習 10. 観劇した作品の批評 11. 小林一三記念館訪問 12. 宝塚歌劇の経営について① 13. 宝塚歌劇の経営について② 14. 宝塚歌劇の上演分析① 15. 宝塚歌劇の上演分析② 16. 後期イントロダクション 17～22. 4年生による卒論についての中間発表 23. 観劇実習にむけて 24. 観劇実習 25. 観劇した作品の批評 26～29. 3年生の発表(戯曲や論文、または映像作品について) 30. まとめ ※観劇実習や小林一三記念館訪問の時期は、変更する可能性があります。							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に与えられたテキストや指示した文献をしっかりと精読しておかなければ、授業のディスカッションにはついていけないので、2時間くらいは予習してください。また学習した内容はレポート作成時に重要になってくるので事後の学習にも1時間はかけましょう。また発表者は、それにプラスして資料収集などの時間が必要です。5, 6時間は必要だと思ってください。							
授業方法	講義形式または学生による個人発表とディスカッション 学外研修あり							
評価基準と評価方法	授業への参加（出席日数とグループワーク等の課題提出）を50%、個人発表とレポートを50%として評価する。							
履修上の注意	最低2回は学外で演劇の観劇を行う。受講生は入場料・交通費等実費負担の必要がある。また、観劇実習は授業時間を別の時間帯に振り替えて実施する予定である。正当な理由がないと遅刻は認めません。							
教科書	適宜プリントを配布する。							
参考書	佐和田敬司、藤原慎太郎、冬木ひろみ、丸本隆、八木斉子（編）『演劇学のキーワード』ペリかん社、2007							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習V						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A53050
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	メディア文化の社会学						
授業の概要	メディア（出版やテレビ、ネット、ソーシャルメディア）や広告・広報、サブカル（漫画やアニメ）、都市文化などのさまざまな社会現象から、私たちが生きている現代社会のありようや問題点を探ります。そのために、先行研究を参照することで、こうした社会現象から現代社会についての問いを立て、調べ、分析するための視点や方法について学びます。 そうして、身近なメディア現象をより広い社会的文脈（メンタリティー、文化、メディア環境、社会制度）や社会的要因（ジェンダー、年齢、階層）と関連づけて考察できるようになることが、この演習のねらいです。前期は、全員でテキストを講読したあと、受講生による発表をします。後期は、やはり受講生による発表を中心に、可能であればゼミプロジェクトやフィールドワークを行います。						
到達目標	（１）メディアに関連するさまざまな社会現象を切り口に、先行研究を踏まえたうえで、現代社会のありようや問題点を考えることができるようになります。【汎用的技術】【態度・志向性】 （２）プロジェクトを通じて、アイデアを表現するための実践的なスキルを習得します。【汎用的技術】						
授業計画	前期 1 インタロクシオン／テキスト選定、発表者割り当て 2 コンテンツ紹介① 3 コンテンツ紹介② 4 コンテンツ紹介③ 5 4回生による研究発表とディスカッション① 6 4回生による研究発表とディスカッション② 7 4回生による研究発表とディスカッション③ 8 4回生による研究発表とディスカッション④ 9 4回生による研究発表とディスカッション⑤ 10 3回生によるテキストの要約発表とディスカッション① 11 3回生によるテキストの要約発表とディスカッション② 12 3回生によるテキストの要約発表とディスカッション③ 13 3回生によるテキストの要約発表とディスカッション④ 14 予備日 15 まとめ 後期 16 インタロクシオン 17 4回生による研究発表とディスカッション① 18 4回生による研究発表とディスカッション② 19 4回生による研究発表とディスカッション③ 20 4回生による研究発表とディスカッション④ 21 4回生による研究発表とディスカッション⑤ 22 ゼミプロジェクト① 23 ゼミプロジェクト② 24 ゼミプロジェクト③ 25 ゼミプロジェクト④ 26 ゼミプロジェクト⑤ 27 ゼミプロジェクト⑥ 28 ゼミプロジェクト⑦ 29 ゼミプロジェクト⑧ 30 まとめ ・テキストは、教員が提示するリストから一緒に選びます。 ・なお、授業の進展にあわせて内容を変更する可能性があります。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： テキスト要約発表の回は、事前に各自テキストを精読し自分の考えや疑問を整理しておく。発表を担当するときは、テキストのほか参考文献にも目を通したうえで、発表レジュメを作成する。（学習時間：2時間） 授業後学習： ゼミプロジェクトに際しては、松蔭manabaを活用しながらグループで作業を進める。（学習時間：2時間）						
授業方法	演習。テキストの要約発表に際しては、個人によるテキストの要約発表およびディスカッションを行う。 ゼミプロジェクトに際しては、松蔭manabaを活用しながらグループワークにもとづく学習を実施し、成果物を制作、発表する。						

評価基準と評価方法	発表（制作物） 70%： テキストで扱った内容の理解度、および、発表レジュメの内容・記述の的確さ、を評価する。また、制作発表を通じた興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標（１）および（２）の到達度の確認。 授業への参加度 30%： ディスカッションにおける質疑応答の的確性、および、グループワーク参加への積極性、を評価する。到達目標（１）および（２）の到達度の確認。
履修上の注意	自分が発表する日に無断欠席をすることは厳禁。 ゼミプロジェクトやフィールドワーク等、授業外における活動が生じる場合でも積極的に取り組むこと。 なお、フィールドワークを実施する場合、費用は実費負担。 2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。
教科書	授業中に指定します。
参考書	授業中に指定します。

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習Ⅰ						
担当教員	打田 素之					科目ナンバー	A64010
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	日本社会の文化現象を探る。						
授業の概要	前期は、サブカルチャー現象（マンガ誌、ホラー映画、アメコミetc）を分析する。 後期は、卒論作成を視野に入れた参加者の発表を中心に、質疑応答形式の授業を行う。						
到達目標	現代日本社会の文化現象を説明することができる。						
授業計画	前期 1. 導入と授業計画の説明 2. 少年マンガ誌（1） 3. " （2） 4. " （3） 5. ホラー映画（1） 6. " （2） 7. " （3） 8. アメリカンヒーロー（1） 9. " （2） 10. " （3） 11. 宮崎アニメ（1）（2） 12. " （2） 13. " （3） 14. 日本のマンガ、アニメ、映画 15. まとめとテスト 後期 1. 夏休みの報告 2. 発表（1） 3. （2） 4. （3） 5. （4） 6. （5） 7. （6） 8. （7） 9. （8） 10. （9） 11. （10） 12. （11） 13. （12） 14. （13） 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	サブカルチャー（マンガ、アニメ、ゲームetc）に頻繁に触れ、たくさんの作品を鑑賞する。（30時間）						
授業方法	演習：受講者の発表を中心に質疑応答形式で進める。						
評価基準と評価方法	発表点56％、テスト44％ 発表はテーマの理解度と独自性を基準に評価する。筆記試験は授業の内容理解を基準に評価する。 質問、評価内容については、授業の前後、オフィスアワーで受け付ける。						
履修上の注意	出席重視。発表を義務とする。						

教科書	プリントを配布
参考書	授業中に指示する。

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	文芸第2演習Ⅱ							
担当教員	栢井 智英					科目ナンバー	A64020	
学期	通年／Full Year		曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	演劇研究の様々な要素、すなわち俳優、戯曲、演出、舞台美術などの上演での役割やその歴史などの基本知識を習得し、卒業研究に向けて各自のテーマを設定できる土台を作っていく。							
授業の概要	宝塚歌劇団についてその発展の歴史、上演スタイルの変遷、人気の秘密、演目の特徴、経営方法などについての検証と考察を行う。後期の途中からは各個人の関心のあるテーマについて発表を行う。							
到達目標	演劇や映像作品の分析。検証能力を高め、卒業研究に向けたテーマ設定ができるようになる。宝塚歌劇の歴史やその特徴について、しっかりと自分の言葉で語ることができるようになる。また舞台上演をある視点から考察し文章にすることができるようになる。							
授業計画	1. イントロダクション 2. 宝塚歌劇の歴史① 3. 宝塚歌劇の歴史② 4. レビューとミュージカルというジャンルについて。 5. 宝塚歌劇が輩出したスターたち 6. 宝塚歌劇と少女漫画の世界 7. 宝塚歌劇と劇団四季について 8. 観劇実習に向けて：作品と劇団についての紹介。 9. 観劇実習 10. 観劇した作品の批評 11. 小林一三記念館訪問 12. 宝塚歌劇の経営について① 13. 宝塚歌劇の経営について② 14. 宝塚歌劇の上演分析① 15. 宝塚歌劇の上演分析② 16. 後期イントロダクション 17～22. 4年生による卒論についての中間発表 23. 観劇実習にむけて 24. 観劇実習 25. 観劇した作品の批評 26～29. 3年生の発表(戯曲や論文、または映像作品について) 30. まとめ ※観劇実習や小林一三記念館訪問の時期は、変更する可能性があります。							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に与えられたテキストや指示した文献をしっかりと精読しておかなければ、授業のディスカッションにはついていけないので、2時間くらいは予習してきてください。また学習した内容はレポート作成時に重要になってくるので事後の学習にも1時間はかけましょう。また発表者は、それにプラスして資料収集などの時間が必要です。5, 6時間は必要だと思ってください。							
授業方法	講義形式または学生による個人発表とディスカッション 学外研修あり							
評価基準と評価方法	授業への参加（出席日数とグループワーク等の課題提出）を50%、個人発表とレポートを50%として評価する。							
履修上の注意	最低2回は学外で演劇の観劇を行う。受講生は入場料・交通費等実費負担の必要がある。また、観劇実習は授業時間を別の時間帯に振り替えて実施する予定である。正当な理由がないと遅刻は認めません。							
教科書	適宜プリントを配布する。							
参考書	佐和田敬司、藤原慎太郎、冬木ひろみ、丸本隆、八木斉子（編）『演劇学のキーワード』ペリかん社、2007							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習V						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	A64050
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	メディア文化の社会学
授業の概要	メディア（出版やテレビ、ネット、ソーシャルメディア）や広告・広報、サブカル（漫画やアニメ）、都市文化などのさまざまな社会現象から、私たちが生きている現代社会のありようや問題点を探ります。そのために、先行研究を参照することで、こうした社会現象から現代社会についての問いを立て、調べ、分析するための視点や方法について学びます。 そうして、身近なメディア現象をより広い社会的文脈（メンタリティー、文化、メディア環境、社会制度）や社会的要因（ジェンダー、年齢、階層）と関連づけて考察できるようになることが、この演習のねらいです。 前期は、全員でテキストを講読したあと、受講生による発表をします。後期は、やはり受講生による発表を中心に、可能であればゼミプロジェクトやフィールドワークを行います。
到達目標	（１）メディアに関連するさまざまな社会現象を切り口に、先行研究を踏まえたうえで、現代社会のありようや問題点を考えることができるようになります。【汎用的技術】【態度・志向性】 （２）プロジェクトを通じて、アイデアを表現するための実践的なスキルを習得します。【汎用的技術】
授業計画	前期 1 イントロダクション／テキスト選定、発表者割り当て 2 コンテンツ紹介① 3 コンテンツ紹介② 4 コンテンツ紹介③ 5 4回生による研究発表とディスカッション① 6 4回生による研究発表とディスカッション② 7 4回生による研究発表とディスカッション③ 8 4回生による研究発表とディスカッション④ 9 4回生による研究発表とディスカッション⑤ 10 3回生によるテキストの要約発表とディスカッション① 11 3回生によるテキストの要約発表とディスカッション② 12 3回生によるテキストの要約発表とディスカッション③ 13 3回生によるテキストの要約発表とディスカッション④ 14 予備日 15 まとめ 後期 16 イントロダクション 17 4回生による研究発表とディスカッション① 18 4回生による研究発表とディスカッション② 19 4回生による研究発表とディスカッション③ 20 4回生による研究発表とディスカッション④ 21 4回生による研究発表とディスカッション⑤ 22 ゼミプロジェクト① 23 ゼミプロジェクト② 24 ゼミプロジェクト③ 25 ゼミプロジェクト④ 26 ゼミプロジェクト⑤ 27 ゼミプロジェクト⑥ 28 ゼミプロジェクト⑦ 29 ゼミプロジェクト⑧ 30 まとめ ・テキストは、教員が提示するリストから一緒に選びます。 ・なお、授業の進展にあわせて内容を変更する可能性があります。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： テキスト要約発表の回は、事前に各自テキストを精読し自分の考えや疑問を整理しておく。発表を担当するときは、テキストのほか参考文献にも目を通したうえで、発表レジュメを作成する。（学習時間：2時間） 授業後学習： ゼミプロジェクトに際しては、松蔭manabaを活用しながらグループで作業を進める。（学習時間：2時間）
授業方法	演習。テキストの要約発表に際しては、個人によるテキストの要約発表およびディスカッションを行う。ゼミプロジェクトに際しては、松蔭manabaを活用しながらグループワークにもとづく学習を実施し、成果物を制作、発表する。
評価基準と評価方法	発表（制作物） 70%： テキストで扱った内容の理解度、および、発表レジュメの内容・記述的的確さ、を評価する。また、制作発表を通じた興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標（１）および（２）の到達度の確認。 授業への参加度 30%： ディスカッションにおける質疑応答的確性、および、グループワーク参加への積極性、を評価する。到達目標

評価基準と 評価方法	(1) および(2)の到達度の確認。
履修上の注意	自分が発表する日に無断欠席をすることは厳禁。 ゼミプロジェクトやフィールドワーク等、授業外における活動が生じる場合でも積極的に取り組むこと。 なお、フィールドワークを実施する場合、費用は実費負担。 2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。
教科書	授業中に指定します。
参考書	授業中に指定します。

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義ⅡB／（西方キリスト教美術）						
担当教員	上久保 真理					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教と美術との関わりを読み解く。						
授業の概要	キリスト教と美術との結びつきは深い。同時に、目には見えない「神」という観念と、見ることを前提とする美術との隔たりは大きい。目に見えないものを解釈し、目に見えるかたちに翻訳するという矛盾に満ちた努力が、図像学的な体系を生み、キリスト教西欧の文化を押し進めてきたと言える。わたしたちは「作品」を読み解くことを通じて、キリスト教西欧における美術の意義について考えよう。						
到達目標	キリスト教西欧の美術の変容と多様化について理解し、その背景にあるキリスト教解釈と美術との深い関わりに思いを致すことができる。						
授業計画	第1回 ヨーロッパの形成とローマ帝国の崩壊 第2回 ゲルマン人とキリスト教 第3回 カロリング朝とオットー朝の美術 第4回 聖遺物崇敬・聖像理論 第5回 修道院・巡礼・十字軍 第6回 ロマネスクの建築と造形イメージ 第7回 ゴシックの建築と視覚性 第8回 ルネサンスの息吹 第9回 科学と芸術 第10回 ローマ教皇庁とマニエリスム 第11回 宗教改革とプロテスタント 第12回 反宗教改革と異端の概念 第13回 プロテスタンティズムと美術の世俗化 第14回 映画とキリスト教 第15回 キリスト教美術の行方						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業計画の各回のテーマについて、各自が前もってインターネットで検索、図書室で調べてみるなどして予習を行うこと（学習時間1.5時間）。 授業後学習：授業で取り上げた箇所の時代背景や、授業で興味を持った作品・作家について、各自がさらに掘り下げて調べてみる（学習時間1.5時間）。 授業中に告知する展覧会などへ積極的に足を運び、生の作品に触れること。						
授業方法	講義形式。 スライド、DVDなどの使用。 個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションもあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合によって評価。						
履修上の注意	私語、携帯やメールの使用、授業中の出入りは慎むこと。教室では固定席（学生番号順）とする。 希望があれば費用各自負担・自由参加で学外見学することも可能。 授業の進行状況等により、毎回の授業計画に多少の変更の可能性もある。 ※質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸の基礎B						
担当教員	打田 素之					科目ナンバー	A0104B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸ジャンルの研究方法を学ぶ。						
授業の概要	文芸の諸ジャンル（小説、アニメ、映画など）から有名作品を取り上げて、それらの研究方法を紹介する。						
到達目標	・文芸ジャンルの分析方法を説明することができる。 ・分析方法の作品への適用を想定できる。						
授業計画	1. 導入と授業計画の説明 2. 聖書の構造分析（1）「出エジプト記」 3. （2）モーセとキリスト 4. （3）福音書 5. （4）聖書とエジプト神話 6. 小説研究（1）『罪と罰』について 7. （2）『罪と罰』と福音書 8. （3）『罪と罰』とヨハネの黙示録 9. 映画研究（1）日本的メロドラマ 10. （2）難病映画 11. （3）「時をかける少女」 12. マンガ研究（1）「NANA」について 13. （2）分身と男女の性差 14. （3）少女マンガにおける母子融合の問題 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	TVも含めて、あらゆる虚構作品＝フィクション（マンガ、アニメ、小説）に触れる（30時間以上）。						
授業方法	講義を基本とするが、常に質疑応答を試みる。						
評価基準と評価方法	・平常点（56％）＋テスト（44％）。 ・平常点は授業中の質疑応答の内容（正確さ、独自性など）に応じて評価する。 ・筆記試験は、授業内容の理解度を問う問題を出題する。 ・講義内容や評価に関する質問は、授業の前後、及びオフィスアワーで受け付ける。						
履修上の注意	出席重視。3分の1以上の欠席で失格とする。						
教科書	プリント配布						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現／文章表現B						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバー	A01030
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文章表現の基礎を学ぶ。						
授業の概要	基本的な文章表現を身につけるとともに、総合文芸学科として必要なアカデミックな文章表現能力を実践的に学ぶ。						
到達目標	文章表現の基礎を習得し、表現することの楽しさを味わいながら自分の考えを表現できるようになる。また、レポート作成の基本的なルールを理解し、レポートの構成ができるようになる。						
授業計画	1. ガイダンス 2. 文章表現の基礎① 読点の役割とその意図 3. 文章表現の基礎② 語順の選択とその意図 4. 要約文作成（論説文）①作成のポイント 5. 要約文作成（論説文）②要約の取り組み 6. 要約文作成（論説文）要約の完成と振り返り 7. 物語の要約（短編ドラマ）① 作成のポイント 8. 物語の要約（短編ドラマ）② ドラマの要約 9. 物語の要約（短編ドラマ）③ 要約の完成と振り返り 10. レポートの作成① レポートとは何か、テーマの決定 11. レポートの作成② 情報収集 12. レポートの作成③ アウトラインの作成、パラグラフを書く 13. レポートの作成④ 文章形式を守る、引用について 14. レポートの作成⑤ 文章の推敲をする 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で学んだことを復習すること。授業で出された課題、例えば文法の課題や文章作成の課題をしっかりとこなすこと（2時間程度必要）。文章表現力は自分の考えを言葉にして述べる機会が多いほど能力があがるので、レポートや要約文作成課題にはしっかり時間をかけてください（2時間～3時間）。						
授業方法	講義と演習。講義では、要約文やレポート作成のために必要な要素を説明し、実際の文章作成だけではなく、図書館やインターネットを使った情報収集なども演習で行います。						
評価基準と評価方法	授業課題として作成された要約文とレポート（60パーセント）、平常点（40パーセント）						
履修上の注意	正当な理由がないと遅刻は認めません。 2/3以上の主席に満たないものは、原則単位認定を行わない。						
教科書	必要に応じて資料やプリントを配布する。						
参考書	石黒圭『よくわかる文章表現の技術Ⅰ 表現・表記編』明治書院、2009 西田みどり『文章表現のためのワークショップ』知玄舎、2009						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	マスコミ文章編集						
担当教員	佐藤 千晴					科目ナンバー	
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	・新聞の精読・製作を通して情報を判断する力、調べる力、表現する力を育てる ・ニュースに接触する習慣を身につける						
授業の概要	新聞の記事、見出し、レイアウトにはニュースを伝える知恵が詰まっています。この授業では講義と実習（新聞記事を素材にした様々な実習と、デスクトップパブリッシング（DTP）ソフト「パーソナル編集長」を使った新聞製作）でその知恵を具体的に学びます。 ▽新聞、インターネットメディアなどの情報を読み解く力 ▽文章を書く力 ▽新聞という形で記事を組み合わせ、表現する力の三つを育てます。 新聞やテレビ、インターネットのニュースに接触する習慣の獲得を目指します。						
到達目標	・新聞などメディアの情報を批判的に読み解けるようになる ・新聞やテレビ、インターネットのニュースに接触する習慣を身につける ・伝えたいことを新聞という形にデザインして表現できるようになる						
授業計画	第1回 オリエンテーション 新聞・メディアの活用法／シラバス解説 第2回 新聞の読み方を学ぶ① 新聞の構成／新聞記事を使った実習・ニュースの価値判断① 第3回 新聞の読み方を学ぶ② 見出しとレイアウト／実習・ニュースの価値判断② 第4回 新聞の読み方を学ぶ③ 記事の種類／新聞記事を使った実習・事実と解釈 第5回 新聞の読み方を学ぶ④ 「5W1H」を意識する／新聞記事を使った実習・縮約 第6回 見出しを学ぶ① 見出しの構造を学び、実際につけてみる／新聞を使った実習・縮約 第7回 見出しを学ぶ② ネットと新聞の見出しの比較／見出し作成実習／新聞を使った実習・縮約 第8回 記事を書いてみる① プレスリリースを素材に／新聞を使った実習・新聞整理ノートを作る①基本 第9回 記事を書いてみる② 複数の記事をまとめる／新聞整理ノートを作る②質問力 第10回 記事を書いてみる③ 記事の要約にコメントをつける／新聞整理ノート③ 記事の背景を知る 第11回 記事を書いてみる④ コラムに挑戦① コラムの構造を分析する／新聞整理ノート④ テーマを決めてスクラップ 第12回 記事を書いてみる⑤ コラムに挑戦② /新聞整理ノート⑤スクラップの発表 第13回 記事を書いてみる⑥ コラムに挑戦③ 第14回 記事を書いてみる⑦ コラムに挑戦④ 提出 第15回 前期のまとめ 第16回 新聞づくりのガイダンス 第17回 「パーソナル編集長」実習① 基本を体験する／論説を書く①論説とは？ 第18回 「パーソナル編集長」実習② 写真の取り込み方・見出し／論説を書く②各紙論説の読み比べ 第19回 「パーソナル編集長」実習③ 紙面を組んでみる／論説を書く③テーマ決定・データ集め 第20回 課題新聞A製作① 記事を選び、写真素材を調達する／論説を書く④構成を決める 第21回 課題新聞A製作② レイアウト・見出しを決める／論説を書く⑤要旨を書いてみる 第22回 課題新聞A製作③ 記事・写真を組み付け、整える／論説を書く⑥要旨から文章へ 第23回 課題新聞A製作④ 校閲・仕上げ・提出／論説を書く⑦完成させる 第24回 課題新聞A製作⑤ 振り返り／論説を書く⑧提出 第25回 課題新聞B製作① ガイダンス／テーマを決め、記事情報・写真素材を集める 第26回 課題新聞B製作② 記事情報・写真素材集め 第27回 課題新聞B製作③ 記事を作成する・レイアウトを考える 第28回 課題新聞B製作④ レイアウト作業 第29回 課題新聞B製作⑤ 仕上げ・提出 第30回 まとめ 課題新聞A＝4月～8月のニュース（新聞・ネット）から選んだ記事と新聞掲載コラムで新聞をつくる 課題新聞B＝好きなテーマを設定し、ネットなどから集めた記事とオリジナル記事・写真・コラムを組み合わせで新聞をつくる						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎日、新聞やテレビ、インターネットでニュースにふれてください。毎回、気になったニュースの紹介と一言コメントを発表してもらいます。新聞スクラップ、作文などの課題も随時、出します。 週に90分程度の学習が目安です。						
授業方法	パソコン教室での講義、ディスカッション、実習です。						
評価基準と評価方法	課題新聞A・B＝60％ スクラップ、作文などその他提出物＝30％ 授業への積極的な参加度＝10％の配点で採点します。						

履修上の注意	毎日、新聞に目を通していただくことを前提に授業を進めます。新聞の定期購読を推奨します。購読できない場合は必ず新聞社のニュースサイトに毎日、目を通すが、大学図書館で新聞を読んでください。
教科書	「新聞力 できる人はこう読んでいる」 齋藤孝・著、ちくまプリマー新書 800円＋税 ISBN: 978-4-480-68968-9
参考書	パソコン編集入門（「パーソナル編集長バージョン11」対応版）＝日本機関紙協会大阪府本部・著、機関紙出版 ・刊 2000円＋税 ISBN: 978-4889009163

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	マスコミ文章編集A							
担当教員	佐藤 千晴						科目ナンバー	A7314A
学期	前期／1st semester		曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	・新聞の精読・製作を通して情報を判断する力、調べる力、表現する力を育てる ・ニュースに接触する習慣を身につける							
授業の概要	新聞の記事、見出し、レイアウトにはニュースを伝える知恵が詰まっています。この授業では講義と新聞記事素材にした様々な実習でその知恵を具体的に学びます。 ▽新聞、インターネットメディアなどの情報を読み解く力 ▽文章を書く力 ▽新聞という形で記事を組み合わせ、表現する力 の三つを育て、新聞やテレビ、インターネットのニュースに接触する習慣の獲得を目指します。 前期のマスコミ文章編集Aは主に読む実習、後期のマスコミ文章編集Bは主に新聞製作実習です。A・B両方の受講を原則とします。							
到達目標	・新聞などメディアの情報を批判的に読み解けるようになる ・新聞やテレビ、インターネットのニュースに接触する習慣を身につける ・伝えたいことを新聞という形にデザインして表現できるようになる							
授業計画	第1回 オリエンテーション 新聞・メディアの活用法／シラバス解説 第2回 新聞の読み方を学ぶ① 新聞の構成／新聞記事を使った実習・ニュースの価値判断① 第3回 新聞の読み方を学ぶ② 見出しとレイアウト／実習・ニュースの価値判断② 第4回 新聞の読み方を学ぶ③ 記事の種類／新聞記事を使った実習・事実と解釈 第5回 新聞の読み方を学ぶ④ 「5W1H」を意識する／新聞記事を使った実習・縮約 第6回 見出しを学ぶ① 見出しの構造を学び、実際につけてみる／新聞を使った実習・縮約 第7回 見出しを学ぶ② ネットと新聞の見出しの比較／見出し作成実習／新聞を使った実習・縮約 第8回 記事を書いてみる① プレスリリースを素材に／新聞を使った実習・新聞整理ノートを作る①基本 第9回 記事を書いてみる② 複数の記事をまとめる／新聞整理ノートを作る②質問力 第10回 記事を書いてみる③ 記事の要約にコメントをつける／新聞整理ノート③ 記事の背景を知る 第11回 記事を書いてみる④ コラムに挑戦① コラムの構造を分析する／新聞整理ノート④ テーマを決めてスクラップ 第12回 記事を書いてみる⑤ コラムに挑戦② ／新聞整理ノート⑤スクラップの発表 第13回 記事を書いてみる⑥ コラムに挑戦③ 第14回 記事を書いてみる⑦ コラムに挑戦④ 提出 第15回 前期のまとめ毎日、新聞やテレビ、インターネットでニュースにふれてください。毎回、気になったニュースの紹介と一言コメントを発表してもらいます。作文などの課題も随時、出します。週に90分程度の学習が目安です。							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎日、新聞やテレビ、インターネットでニュースにふれてください。毎回、気になったニュースの紹介と一言コメントを発表してもらいます。作文などの課題も随時、出します。 週に90分程度の学習が目安です。							
授業方法	パソコン教室での講義、ディスカッション、実習です。							
評価基準と評価方法	スクラップ、作文など提出物=90% 授業への積極的な参加度=10% の配点で評価します。							
履修上の注意	毎日、新聞に目を通していただくことを前提に授業を進めます。新聞の定期購読を推奨します。購読できない場合は必ず新聞社のニュースサイトに毎日、目を通すか、大学図書館で新聞を読んでください。							
教科書	「新聞力 できる人はこう読んでいる」 齋藤孝・著、ちくまプリマー新書 800円＋税 ISBN:978-4-480-68968-9							
参考書								

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	マスコミ文章編集B						
担当教員	佐藤 千晴					科目ナンバ－	A7314B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	・新聞の精読・製作を通して情報を判断する力、調べる力、表現する力を育てる ・ニュースに接触する習慣を身につける						
授業の概要	新聞の記事、見出し、レイアウトにはニュースを伝える知恵が詰まっています。この授業では講義と新聞記事素材にした様々な実習でその知恵を具体的に学びます。 ▽新聞、インターネットメディアなどの情報を読み解く力 ▽文章を書く力 ▽新聞という形で記事を組み合わせて、表現する力 の三つを育て、新聞やテレビ、インターネットのニュースに接触する習慣の獲得を目指します。 前期のマスコミ文章編集Aは主に読む実習、後期のマスコミ文章編集Bは主に新聞製作実習です。A・B両方の受講を原則とします。						
到達目標	・新聞などメディアの情報を批判的に読み解けるようになる ・新聞やテレビ、インターネットのニュースに接触する習慣を身につける ・伝えたいことを新聞という形にデザインして表現できるようになる						
授業計画	第1回 シラバス解説 新聞づくりのガイダンス 第2回 「パーソナル編集長」実習① 基本を体験する／論説を書く①論説とは？ 第3回 「パーソナル編集長」実習② 写真の取り込み方・見出し／論説を書く②各紙論説の読み比べ 第4回 「パーソナル編集長」実習③ 紙面を組んでみる／論説を書く③テーマ決定・データ集め 第5回 課題新聞A製作① 記事を選び、写真素材を調達する／論説を書く④構成を決める 第6回 課題新聞A製作② レイアウト・見出しを決める／論説を書く⑤要旨を書き出す 第7回 課題新聞A製作③ 記事・写真を組み付け、整える／論説を書く⑥要旨から文章へ 第8回 課題新聞A製作④ 校閲・仕上げ・提出／論説を書く⑦完成させる 第9回 課題新聞A製作⑤ 振り返り／論説を書く⑧提出 第10回 課題新聞B製作① ガイダンス／テーマを決め、記事情報・写真素材を集める 第11回 課題新聞B製作② 記事情報・写真素材集め 第12回 課題新聞B製作③ 記事を作成する・レイアウトを考える 第13回 課題新聞B製作④ レイアウト作業 第14回 課題新聞B製作⑤ 仕上げ・提出／ 第15回 まとめ 課題新聞A＝4月～8月のニュース（新聞・ネット）から選んだ記事と新聞掲載コラムで新聞をつくる 課題新聞B＝好きなテーマを設定し、ネットなどから集めた記事とオリジナル記事・写真・コラムを組み合わせで新聞をつくる						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎日、新聞やテレビ、インターネットでニュースにふれてください。毎回、気になったニュースの紹介と一言コメントを発表してもらいます。 作文などの課題も随時、出します。週に90分程度の学習が目安です。						
授業方法	パソコン教室での講義、ディスカッション、実習です。						
評価基準と評価方法	課題新聞A・B＝70% 作文などその他提出物＝20% 授業への積極的な参加度＝10% の配点で評価します。						
履修上の注意	前期のマスコミ文章編集Aも受講していることを前提に講義を進めます。 毎日、新聞に目を通していただくことを前提に授業を進めます。新聞の定期購読を推奨します。購読できない場合は必ず新聞社のニュースサイトに毎日、目を通すか、大学図書館で新聞を読んでください。						
教科書	「新聞力 できる人はこう読んでいる」 齋藤孝・著、ちくまプリマー新書 800円＋税 ISBN:978-4-480-68968-9						
参考書	「パソコン編集入門」（「パーソナル編集長バージョン11」対応版）＝日本機関紙協会大阪府本部・著、機関紙出版・刊 2000円＋税 ISBN: 978-4889009163						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	民俗の比較文芸史／比較文化ⅣA						
担当教員	押川 かおり					科目ナンバ－	A32050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文学の中に描かれた植物に焦点を当て、その象徴的意味や描写の在り方を通して、日本における異文化の摂取や、独自の文化の様相を見ていく。						
授業の概要	文学作品の中にはさまざまな植物が登場する。その中には単なる景物にとどまらず、重要な意味を担うものや、民族におけるある共通の理解を背景として描かれている場合がある。ここでは、そのような植物のいくつかを取り上げ、日本と外国の作品との比較を通して、象徴としての植物の姿を追う。						
到達目標	(1) 日本と大陸文化とのつながりを見、文化の交流、摂取の跡を知る。【理解・知識】 (2) 日常生活の中で何気なく目にしているものの背後にある歴史、文化を実感する。【理解・分析力】 (3) 日本の古典作品についての基礎知識、古文、漢文の基礎的な読解力をつける。【知識・汎用力】						
授業計画	1 文学に描かれた植物たち 2 梅 大陸文化の受容と展開 ① 3 桃 大陸文化の受容と展開 ② 4 桜 国風文化の展開 ① 5 柳 国風文化の展開 ② 6 白膠木 仏教と植物 7 樟・榎 民族移動の歴史 8 檜 神事と植物 ① 9 杉 神事と植物 ② 10 梶 神事と植物 ③ 11 桂 天と地をつなぐもの 12 松 神仙思想から芸術へ 13 樺 聖俗の挟間 ① 14 竹 聖俗の挟間 ② 15 まとめ 象徴としての植物						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前に、各テーマに関する資料に目を通し、該当する文学作品に目を通し、必要に応じて語義などを調べ、解釈、口語訳をしておく。 二回目以降は、講義を通して気付いたこと、追加で調べたことなどを記録し、次回の授業で報告できるよう準備しておく。						
授業方法	講義形式。ただし、各テーマに関係する文学作品についての準備学習に基づく質問、発言、発表など、学生の主体的活動を随時織り交ぜて進める。						
評価基準と評価方法	評価方法 平常点40%（授業内での報告、発表など）レポート60% 評価基準 到達目標の(1)～(3)に関する到達度を評価する。						
履修上の注意	平常点の割合が大きいので、欠席がないように気をつける。						
教科書	プリントを配布。						
参考書	基礎文献一覧を配布						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	メディア社会の諸問題／文芸特殊講義ⅡIB							
担当教員	西川 純司					科目ナンバ－	A43030	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	写真から考えるメディア社会							
授業の概要	報道写真やドキュメンタリー写真は社会の出来事を伝えてくれる一方で、ときに情報操作にも用いられます。また写真は、商品や観光地を魅力的にみせる一方で、過剰な演出を生み出すことがあります。さらに写真は、スマホによって手軽に撮影しネットで共有できる一方で、容易に編集・加工されたりもします。このように、写真は政治から経済、文化にいたるまで社会と深く結びついた重要なメディアですが、それゆえときに問題を引き起こすことがあります。この授業では、毎回テーマに沿った写真をもとに、写真というメディアがもつ特性やそれがもたらす問題について考えます。また、実際に写真を撮ったりレイアウトを考えることで、それらを実践的に理解していきます。							
到達目標	（１）写真を批判的に読み解くための方法が身につきます。【知識・理解】 （２）写真の撮影やレイアウトを通して、表現方法（メッセージを伝える力）を磨くことができます。【汎用的技能】							
授業計画	1 インTRODクシヨン 2 写真とは何か 3 写真を分析する視点 4 報道と写真（１）：報道写真 5 報道と写真（２）：異文化の表象 6 消費と写真（１）：観光写真 7 消費と写真（２）：キャブシヨン 8 中間発表会 9 文化と写真（１）：写真を編集・加工する 10 文化と写真（２）：写真撮影の技法 11 写真で表現する（１）：テーマを決める 12 写真で表現する（２）：「なにを伝えるか」を決める 13 写真で表現する（３）：レイアウトを決める 14 制作課題発表会 15 まとめ							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	原則として授業時間内で制作課題など、すべての学習を行う。 授業後学習： 中間課題および期末課題の一部については、授業外に行うことがある。（学習時間：2時間）							
授業方法	講義。基本的には解説・講義を行う。 中間課題や期末課題に際しては、個人やペアによるワークをする。							
評価基準と評価方法	制作課題 70%（中間課題20%＋期末課題50%）： 授業で学習した内容や技法を踏まえて課題が作成できているか評価する。到達目標（２）の到達度の確認。 授業態度 30%： 毎回提出のリアクションペーパーの内容・記述的的確さを評価する。到達目標（１）の到達度の確認。 なお、中間発表会および制作課題発表会を実施し、制作課題に対する評価をフィードバックする。							
履修上の注意	私語は厳禁ですが、授業に関する積極的な発言は歓迎します。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。							
教科書	毎回プリントを配布します。							
参考書								

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	メディアと現代文化／文芸講読VB							
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A12060	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映像メディアを分析する視座を学ぶ							
授業の概要	本講義では、映画や動画の鑑賞を通して、映像メディアをより豊かに理解し分析するためのいくつかの視座を学びます。授業では、テーマごとに、まず分析手法を解説したうえで、映画や動画を鑑賞します。鑑賞後、小レポートに取り組んでもらい、それにもとづいてディスカッションを行います。これらを通して、映像メディアを分析するためのいくつかの手法を理解し、さまざまな読みの可能性があることを学びます。こうした分析手法は、映画や動画だけでなく、文学やアニメ、マンガなど広く文芸作品全般に応用できることを理解してもらいたいと思います。							
到達目標	(1) 映像メディア（映画や動画）を分析するための視座を習得することができる。【知識・理解】 (2) 映画や動画を批評し、内容について他者と討論する力を身につけることができる。【汎用的技能】							
授業計画	1 インTRODクシヨン 2 批評とは：映像メディアに対するアプローチ 3 物語の構造（1）：構造分析についての解説 4 物語の構造（2）：『千と千尋の神隠し』鑑賞・小レポート 5 物語の構造（3）：ディスカッション 6 社会問題（1）：社会学的分析についての解説 7 社会問題（2）：『ズートピア』鑑賞・小レポート 8 社会問題（3）：ディスカッション 9 コミュニケーション（1）：表象分析についての解説 10 コミュニケーション（2）：『聲の形』鑑賞・小レポート 11 コミュニケーション（3）：ディスカッション 12 メディアの形式（1）：メディア論的分析についての解説 13 メディアの形式（2）：テレビ番組およびネット動画の鑑賞・小レポート 14 メディアの形式（3）：ディスカッション 15 まとめ ※鑑賞する作品は変更する可能性があります。							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： 小レポートを作成する。（学習時間：2時間） 授業後学習： ディスカッションで議論された内容の要点を確認・整理する。（学習時間：1時間）							
授業方法	演習。作品鑑賞の後、小レポートの作成およびグループディスカッションを行う。ディスカッションの内容を踏まえて、作品の解説・講義を行う。							
評価基準と評価方法	小レポート 60%（15%×4回）： 作品内容の理解度、および、小レポートの内容・記述の的確さ、を評価する。到達目標（1）の到達度の確認。 授業態度 40%： ディスカッションにおける議論の的確性を評価する。到達目標（2）の到達度の確認。							
履修上の注意	鑑賞後のディスカッションに積極的に参加することが求められる。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。							
教科書	毎回プリントを配布します。							
参考書								

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	メディアとジャーナリズム／文芸特殊講義ⅢⅠA						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ－	A43020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会におけるジャーナリズムとメディア						
授業の概要	インターネットを通じて誰もが報道・評論活動を行ないうる現在、ジャーナリズムやメディアに関する基本的な知識を知っておくことは重要です。この授業では、わたしたちが生活していくなかで最低限知っておくべき報道やメディアについて概括的に学びます。とりわけ、新聞・出版・テレビ・インターネットの各メディアを取りあげ、インターネット時代におけるそれらメディア産業のあり方や問題を考えます。また、ニュースを読み解くための重要なキーワードを理解しながら、時事的な問題についての知識も身につけます。						
到達目標	(1) ジャーナリズムやメディアについての基本的な知識を得ることができる。【知識・理解】 (2) 身近なニュースから現在の報道やメディアのあり方について考え、議論する力を身につけることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】						
授業計画	1 イントロダクション 2 ジャーナリズムとは何か 3 メディアのいま(1)：新聞社 4 メディアのいま(1)：ネット時代のニュース 5 キーワードから読み解くニュース(1)：報道の自由 6 メディアのいま(2)：出版社 7 メディアのいま(2)：ネット時代の出版 8 キーワードから読み解くニュース(2)：報道被害 9 メディアのいま(3)：放送局 10 メディアのいま(3)：ネット時代のテレビ 11 キーワードから読み解くニュース(3)：炎上 12 メディアのいま(4)：インターネット 13 メディアのいま(4)：ウェブ・コンテンツ 14 レポート検討会 15 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習： 各回授業で扱うテーマに関するニュースや新聞記事を下調べする。(学習時間：1時間) 授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点を確認・整理する。(学習時間：1時間)						
授業方法	講義。基本的には解説・講義を行う。一部、簡単なグループワークをする機会を設ける。						
評価基準と評価方法	期末レポート 70%： 授業で学習した内容を踏まえたレポートが作成できているか評価する。到達目標(1)および(2)の到達度の確認。 授業態度 30%： 各回提出のリアクションペーパーの内容・記述の的確さを評価する。到達目標(1)の到達度の確認。 なお、第14回にレポート検討会を実施し、レポート内容に対する評価をフィードバックする。						
履修上の注意	マスコミ関係に就職を希望する者は受講することが望ましい。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書	田村紀雄・林利隆・大井眞二編、『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』、世界思想社、2004年 原寿雄、『ジャーナリズムの思想』、岩波新書、1997年						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	メディアと文芸／文芸講読VA							
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A12050	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画の宣伝・広告戦略							
授業の概要	本講義では、スタジオジブリの映画プロデューサーである鈴木敏夫による宣伝・広告の仕事を中心にみることで、日本のアニメーション映画がどのようにヒットを生み出し続けてこられたのかを考えます。なぜスタジオジブリは『風の谷のナウシカ』や『もののけ姫』、『千と千尋の神隠し』などのヒット作を生み出すことができたのか。講義では、それをクリエイターだけでなくプロデューサーや映画会社、広告会社、出版社、テレビ局などの協働による結果として分析していきます。そのなかでも、とりわけ宣伝・広告戦略という点に着目してみること、ヒットを生むための宣伝・広告を考えます。							
到達目標	(1) 映画作品をクリエイターやプロデューサー、映画会社、広告会社、出版社、テレビ局などによる協働の産物として分析する視点を身につけることができる。【知識・理解】 (2) 成功する宣伝・広告を考える力を養うことができる。【態度・志向性】							
授業計画	1 イントロダクション／発表者の割り当て 2 『仕事道楽』 第1章 3 第2章 4 第3章 5 第4章 6 第5章 7 第6章 8 第7章 9 第8章 10 『ジブリの仲間たち』 第1章 11 第2章 12 第3章 13 第4章 14 第5章 15 第6章 ・なお、受講生の人数や授業の進展にあわせて内容を変更する可能性があります。							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： 事前に各自テキストを精読し自分の考えや疑問を整理しておく。発表を担当するときは、テキストのほか参考文献にも目を通したうえで、発表レジュメを作成する。（学習時間：2時間） 授業後学習： ディスカッションで議論された内容の要点を確認・整理する。（学習時間：1時間）							
授業方法	演習。受講生によるテキストの要約発表およびディスカッションを行う。							
評価基準と評価方法	発表 70%： テキストで扱った内容の理解度、および、発表レジュメの内容・記述の的確さ、を評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。 授業態度 30%： ディスカッションにおける質疑応答の的確性を評価する。到達目標（1）の到達度の確認。 なお、ディスカッション後に、発表内容に対する評価をフィードバックする。							
履修上の注意	自分か発表する日に無断欠席をすることは厳禁。 ディスカッションなど、授業への積極的な参加が必要です。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。							
教科書	鈴木敏夫、『仕事道楽 新版 スタジオジブリの現場』、岩波書店、2014年 鈴木敏夫、『ジブリの仲間たち』、新潮社、2016年							
参考書	スタジオジブリ責任編集、『ナウシカの「新聞広告」って見たことがありますか。—ジブリの新聞広告18年史』、徳間書店、2002年							